

宇川地域における買い物に関する 調査報告書



報告書公表によせて

第Ⅰ部 宇川地域における買い物に関する全世帯対象
アンケート調査結果について

第Ⅱ部 いととめ移動販売に関する調査結果について

第Ⅲ部 金曜市に関する調査結果について

2022 年 3 月

龍谷大学政策学部 今里ゼミナール

報告書公表によせて

龍谷大学政策学部教授 今里佳奈子

本調査報告書は、「全世帯アンケート調査」、「いともめ販売調査」、「金曜市調査」の3つの調査に関する調査報告書です。宇川スマート定住促進協議会（金曜市主催）の活動が2022年3月で終了すること、今後ますます高齢化が進んでいくことなどから改めて調査を行うこととしました。調査には宇川地域の皆様、いともめにご協力をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

3つの買い物調査を行ったことにより、多くのことがわかりました。

第一に、年齢、世帯構成、自家用車の利用状況によって、買い物をする方法や場所、頻度、必要なものなどに大きな違いが見られたことです。宇川地域みなさんは75歳を過ぎても運転をされる方が多いですが、それでも75歳以上のみの世帯や単身世帯では、自家用車を利用する割合が減少し、中には「買い物では外にでない」という回答もありました。バスやささえあい交通を利用して遠くまで買い物に出かける方はあまりいらっしゃいませんでした。

第二に、買い物に困難を抱えていると思われる世帯でも、近所の人やヘルパーさんなど、家族以外の人に買い物を頼むという方が殆どいらっしゃらないことです。親しいが故に頼みにくいということなののでしょうか。或いは、本当に助けを必要としている方達は、調査に回答することさえできなかったのかもしれませんが。

第三に、いともめ移動販売と金曜市が果たしている大きな役割です。調査では、いともめ移動販売車と一緒に全集落をまわりましたが、販売車がくる前から多くの方が待っていらっしゃり、移動販売の日が交流や健康チェックの機会となっている例もありました。80歳以上の方が多く、高齢で車を利用せず、いともめ移動販売だけが買い物手段という方も少なからずいらっしゃいました。

金曜市では、手づくりのお惣菜が人気で、欠かさず来られているという方、カフェでの交流が楽しみで来られている方など、買い物に加えて楽しみを求めて来られている方が多いのが印象的でした。ただ、徒歩でこられる久僧の方が多く、いともめ移動販売を利用されていた方達のほとんどは、「移動」と「気持ち」がバリアになっていて、金曜市には来られないとのことでした。

「買い物困難」の問題は、「店舗が近所にあればよい」「買い物手段があればよい」という物理的な問題ではなく、社会的孤立や幸せな暮らし（ウェルビーイング）の問題でもあります。2021年9月現在、宇川地域で65歳以上の方は572人（49.4%）。中でも一番人口の大きい年齢層は「70歳代」の方達です（1,166人のうち256人）。現在、運転をされているこの世代の方達の多くが5年後、10年後には運転が難しくなっていくことでしょう。5年後、10年後を見据え、地域をあげて孤立を防ぎ、「幸せな暮らし（ウェルビーイング）」を創り出す手立てを講じていくことが、今ほど求められている時はないのではないのでしょうか。

目次

第Ⅰ部 宇川地域における買い物に関する全世帯対象アンケート調査	3
1. 調査の概要	3
2. 回答者の属性	4
3. 回答世帯の状況	4
4. 買い物に行く移動手段	5
5. 買い物をする場所	8
6. 買い物をする人	12
7. 買い物頻度	13
8. 「今後宇川に必要なもの」について	15
9. 「実現可能だと思う方法」について	19
10. 買い物全般についての自由記述	21
11. 団体への期待について	22
【参考資料】調査項目	24
第Ⅱ部 いととめ移動販売に関する調査結果について	27
1. 調査の概要	27
2. いととめ移動販売の概要	27
3. 買い物客への聞き取り調査結果	29
4. 小括	31
第Ⅲ部 金曜市に関する調査結果について	32
1. 調査の概要	32
2. 金曜市の概要	33
3. 買い物客へのアンケート調査結果	33
4. 小括	35

作成 今里ゼミ 6 期生

監修 今里佳奈子

ゼミ長 細井辰哉

奥村星南

小島大輝

櫻井雄太

高田翔也

中川祐華

中嶋彩乃

中嶋理桜

中村まどか

藤田稜平

平家菜摘

前川早紀

宮崎晴加

山上真輝

吉田七海

第 I 部 宇川地域における買い物に関する全世帯対象アンケート調査

1. 調査の概要

- (1) 目 的 : 宇川地域住民の買い物状況を把握し、どのようなニーズがあるのか、どのような買い物支援が望まれているのかを明らかにする。
- (2) 実施主体 : 龍谷大学政策学部 今里ゼミナール
- (3) 協力機関 : 上宇川連合区長会 下宇川連合区長会、
宇川スマート定住促進協議会 京丹後市丹後市民局、
- (4) 対象 : 宇川地域全世帯
- (5) 調査方法 : 紙媒体のアンケート用紙を配布、世帯単位で回答
- (6) 回収方法 : 区から隣組を通じて配布と回収
- (7) 集計機関 : 今里ゼミナール
- (8) 調査期間 : 2021 年 8 月 25 日～2021 年 9 月 5 日
- (9) 回収状況一覧

表 1「買い物アンケートの個別回収

配布先	部数 (各戸配布)	回収数	回収率
平区	80	34	42.5%
井上区	5	2	40.0%
中野区	22	11	50.0%
井谷区	4	4	100.0%
畑区	2	0	0.0%
遠下区	28	20	71.4%
鞍内区	13	8	61.5%
袖志区	63	42	66.7%
尾和区	25	20	80.0%
中浜区	140	37	26.4%
久僧区	80	43	53.8%
上野区	45	32	71.1%
谷内区	25	9	36.0%
上山区	5	2	40.0%
	537	264	49.2%

【※重要世帯類型・年齢区分】

集計に当たっては、特に、下記の世帯類型・年齢に着目して分析を行った。

全世帯	65 歳未満のみの世帯
	65 歳以上の高齢者がいる世帯（高齢者のいる世帯）
	65 歳以上のみの高齢者の世帯（高齢者のみ世帯）
	75 歳以上のみの高齢者の世帯（後期高齢者のみ世帯）
単身世帯	65 歳以上の単身世帯
	75 歳以上の単身世帯

2. 回答者の属性

- 回答者は女性の方が多い(65.1%)。
- 70 歳代の回答者が最も多い。

全回答者中 258 人から属性についての回答を得ることができた。内訳は、女性が 168 人 (65.1%)、男性が 90 人 (34.9%) であり、女性が回答する割合が高かった。また、年代では、70 歳代が 90 人 (34.9%) と最も多く、60 歳代以上の回答者が 187 人と、全体の 72.5% を占めた。

表 2「買い物アンケートの回答者の年代」

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	合計
回答数	1	2	7	17	44	60	90	32	5	258
割合	0.4%	0.8%	2.7%	6.6%	17.1%	23.3%	34.9%	12.4%	1.9%	100.0%

3. 回答世帯の状況

- 小規模世帯が多い (単身+夫婦のみ世帯で 62.6%)。
- 65 歳以上のみの世帯が 121 世帯。75 歳以上のみの世帯が 57 世帯。
- 単身世帯の 7 割が 65 歳以上、3 割が 75 歳以上。

「単身世帯」が 259 世帯中 74 世帯 (28.6%)、「夫婦のみ世帯」が 89 世帯 (34.4%)、「多世代世帯」(2 世代以上世帯) が 96 世帯 (37.1%) である(未記入 5 世帯)。単身世帯と夫婦のみ世帯を合わせると、全体の 60% を超えていることがわかる。

次に、年齢構成と世帯構成について見てみる。まず、65 歳以上の高齢者のいる世帯 (高齢者のいる世帯) が、264 世帯中 196 世帯 (74.2%) である。また、「65 歳以上のみ世帯」(高齢者のみ世帯) が 264 世帯中 121 世帯 (45.8%)、「75 歳以上のみ世帯」(後期高齢者のみ世帯) が 57 世帯 (21.6%) となっている。一方、65 歳以上の高齢者がいない世帯は 62 世帯 (23.5%) ある。

続いて、単身世帯における年齢構成を見ると、65 歳以上の世帯が 74 世帯中 52 世帯 (70.2%)、75 歳以上の世帯が 26 世帯 (35.1%) である。単身世帯の 7 割が高齢者、特に 75 歳以上の高齢者が単身世帯の 3 割以上を占めており、他の世帯類型よりも高齢者のみ世帯の占める割合が高くなっている。

表 3「買い物アンケートの回答者の年代」

世帯類型	世帯数	回答者中の割合
65 歳未満のみの世帯	62 世帯	23.4%
65 歳以上の高齢者がいる世帯	196 世帯	74.2%
65 歳以上の高齢者のみの世帯	121 世帯	45.8%
75 歳以上の高齢者のみ世帯	57 世帯	21.6%
世帯類型	世帯数	単身世帯中の割合
65 歳以上の単身世帯	52 世帯	70.2%
75 歳以上の単身世帯	26 世帯	35.1%

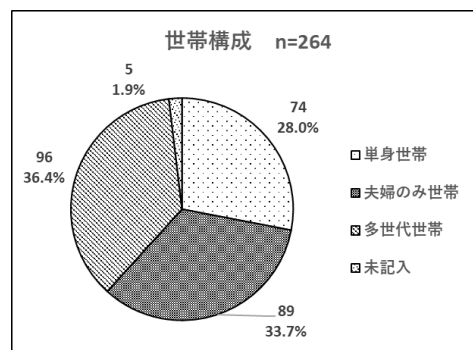


図 3「世帯構成」

4. 買い物に行く移動手段

(1) 移動手段（単純集計結果）

- 自家用車で買い物に行く世帯が多い（221 世帯、83.7%）。
- 自家用車以外の手段で買い物に行く世帯は少ない。
- 買い物では外にでない世帯が 42 世帯（15.9%）。

買い物に行く手段として、「自分/同居家族の車」と回答した世帯が 264 世帯中 221 世帯（83.7%）となっており、「自家用車」を利用する世帯が圧倒的に多いことがわかる。一方、「買物で外に出ない」と回答した世帯が 264 世帯中 42 世帯（15.9%）となっており、回答のなかでは 2 番目に多くなっている。「車」と「買物で外には出ない」の回答以外では、「徒歩」や「バス」、「同居していない家族」、「知り合い」、「ささえ合い交通」、「自転車」と回答した世帯はそれぞれ全体の 10% 以下であった。

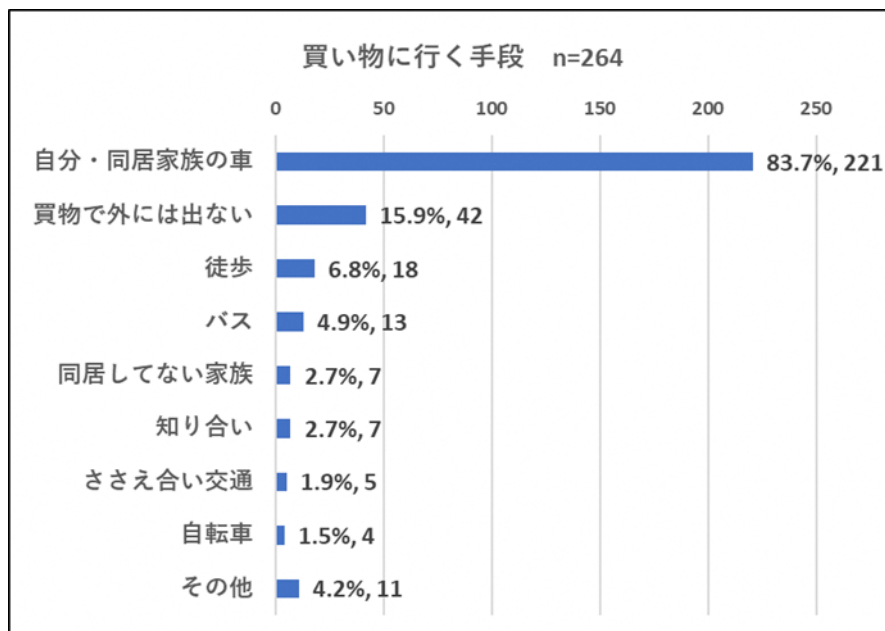


図 4-1 「買い物に行く手段」

(2) 年齢・世帯構成から見る移動手段（車との関係）

- 自家用車の利用状況は、年齢・世帯構成によって大きく異なる。
- 65 歳未満の家族のいる世帯では自家用車を利用する世帯が 9 割を超えている。
- 高齢者のみ世帯になると、自家用車を利用する割合は低下していく。
- 特に単身の高齢世帯の自家用車の利用率は低い（65 歳以上で 56.5%）。
- 一方、75 歳以上のみの世帯でも約 4 割は自家用車で買い物に行っている。

「65 歳未満のみの世帯」では自家用車の利用率は、62 世帯中 60 世帯（96.8%）、「65 歳以上と 65 歳未満の者のいる世帯」は 75 世帯中 70 世帯（93.3%）であり、家族の中に 65 歳未満の家族員がいる世帯では、自家用車の利用率が 9 割を超えている。

一方、「65 歳以上のみの世帯」の自家用車の利用は 121 世帯中 88 世帯（72.7%）、「75

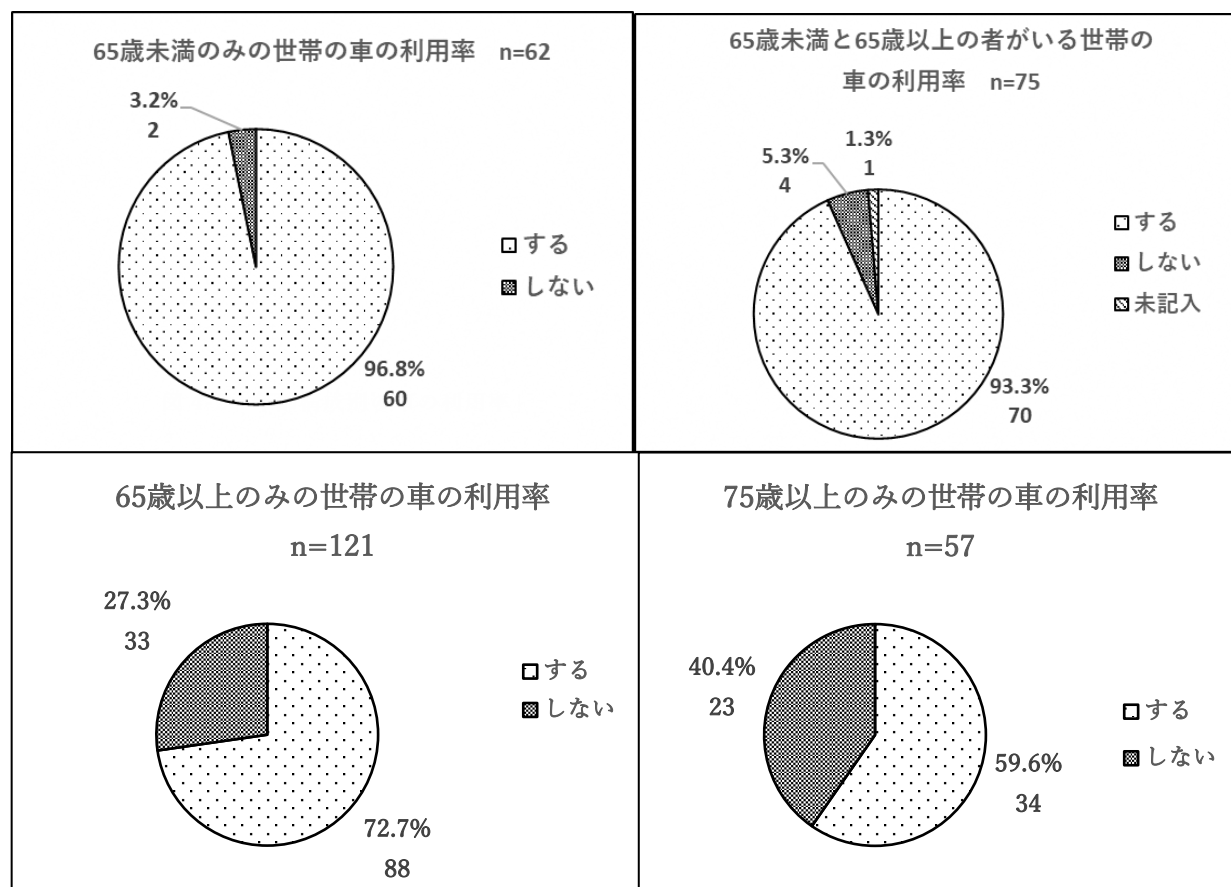
歳以上のみの世帯」は 57 世帯中 34 世帯（59.6%）であった。

また、単身世帯でみると、「65 歳以上」の自家用車の利用率は、52 世帯中 27 世帯（51.9%）、「75 歳以上」は、26 世帯中 11 世帯（42.3%）と、全体よりも自家用車の利用率が低くなっている。

このように、移動手段に「自家用車」を利用している世帯は、65 歳未満の家族がいる場合は、9 割以上であるが、65 歳以上のみの世帯、75 歳以上のみの世帯という高齢者のみ世帯は、「自家用車」の利用率が低下していく。特に、単身の高齢世帯では自家用車を利用する割合が非常に低いことがわかった。このことから、単身世帯の場合には、たとえば、運転免許証の取得率が低いとされている女性が一人暮らしになった場合に、車を利用できなくなっているようなケースが多いのではないかと推測できる。一方、75 歳以上のみ世帯でも車を利用している世帯が 6 割以上いることから、宇川では高齢になっても、車が必要とされていることがわかる。

表 4-1 「自家用車の利用率」

	世帯数	車を利用する世帯数	該当世帯の割合
65 歳未満のみの世帯	62 世帯	60 世帯	96.8%
65 歳以上・未満のいる世帯	75 世帯	70 世帯	93.3%
65 歳以上の高齢者のみの世帯	121 世帯	88 世帯	72.7%
75 歳以上の高齢者のみの世帯	57 世帯	34 世帯	59.6%
65 歳以上の単身世帯	52 世帯	27 世帯	51.9%
75 歳以上の単身世帯	26 世帯	11 世帯	44.0%



(3) 自家用車を利用しない世帯の内訳と買い物行動

- 自家用車を利用しない世帯の 7 割は単身世帯（その 7 割は女性）。
- 自家用車を利用しない世帯の 4 割は、「買い物で外にでない」。

自家用車を利用しない世帯は、264 世帯中 43 世帯（16.3%）であった。その中で、単身世帯が 28 世帯、夫婦のみ世帯が 6 世帯、多世代世帯（2 世代以上世帯）が 7 世帯であり、単身世帯が 70.1%を占めている。また、車を利用しない単身世帯のうち、女性が 19 世帯（67.8%）を占めている。

車を運転しない世帯は、65 歳以上のみの単身世帯に多く、同居の家族もいないため、困難に感じている人が多いのではないかと考えられる。

表 4-2 「車を利用しない世帯」

	全世帯	単身世帯	夫婦のみ世帯	それ以外の世帯
全年齢層（世帯構成等不明 2、年齢不明 1）	43 世帯	28 世帯	6 世帯	7 世帯
65 歳以上・未満の両方がある世帯	5 世帯	0 世帯	0 世帯	5 世帯
65 歳以上のみの世帯	33 世帯	25 世帯	6 世帯	2 世帯
75 歳以上のみの世帯	23 世帯	15 世帯	6 世帯	2 世帯
65 歳未満のみの世帯	2 世帯	2 世帯	0	0

また、車を利用しない世帯が買い物をする手段として「買い物で外に出ない」と回答した世帯が 43 世帯中 17 世帯（39.5%）、次いで「徒歩」と回答した世帯が 11 世帯（25.5%）、「バス」と回答した世帯が 8 世帯（18.6%）であった。「自転車」「同居していない家族の車」「知り合いの車」「ささえ合い交通」と回答した世帯は、いずれも 10% 程度である。

「買い物で外に出ない」と回答した世帯は主に「生協」を利用している。

表 4-3 「車を利用しない世帯の買い物手段」

	徒歩	自転車	同居していない 家族	知り合い の車	買い物で 外に出ない	バス	ささえ合い 交通	その他
世帯数	11 世帯	4 世帯	5 世帯	4 世帯	17 世帯	8 世帯	1 世帯	2 世帯
割合	25.6%	9.3%	11.6%	9.3%	39.5%	18.6%	2.3%	4.7%

(4) 運転するつものの年齢

- 高齢まで車を運転するつもの人が多い。

現在、自家用車を利用している世帯に、何歳まで車を運転するか尋ねたところ、「80 歳以上まで運転する」世帯が 127 世帯（48.1%）、「75 歳まで運転する」世帯が、56 世帯（21.2%）であり、運転をやめるつものの年齢は、非常に高齢である。これは、生活する上で車が必需品であるためだと思われる。

表 4-4 「何歳まで車を運転するのか」

	65 歳まで	70 歳まで	75 歳まで	80 歳以上	未記入	全世帯
世帯数	9	12	56	127	60	264
割合	3.4%	4.5%	21.2%	48.1%	22.7%	100%

また、運転できなくなったら買い物をどうするかとの問（問 3）に対しては、「生協」を利用するとした世帯が、199 世帯（75.4%）であり、「同居していない家族」に頼むとした世帯は 74 世帯（28.0%）、「丹海バス」を利用する世帯が 57 世帯（21.6%）であった。多くの世帯が生協を利用して、商品を持って来てもらう買い物方法を利用すると回答している。一方、現在は、ほとんど買い物移動手段として使われていない「丹海バス」と回答する世帯が一定数おり、これからの需要が増加することが考えられる。

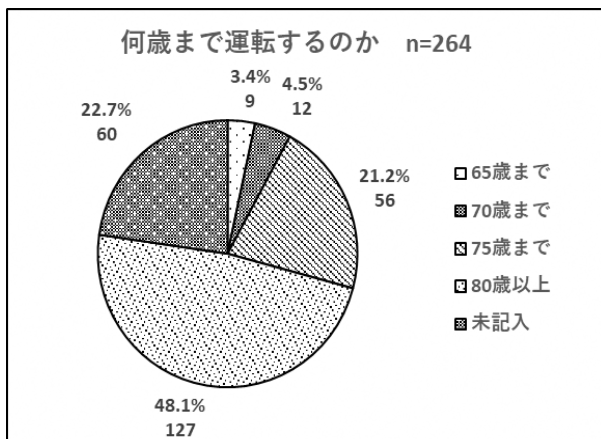


図 4-3 「車を運転するつものの年齢」

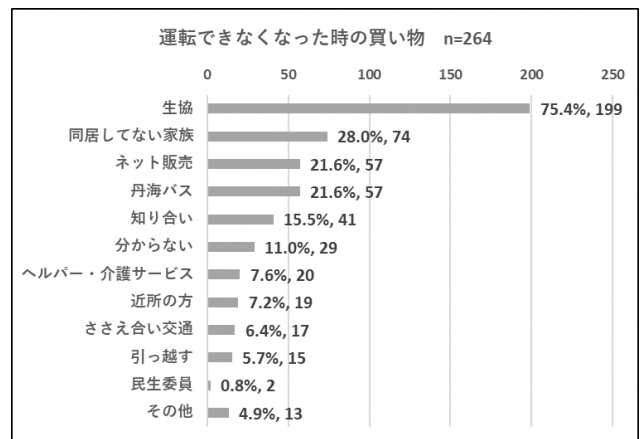


図 4-4 「運転できなくなったらどうするのか」

5. 買い物をする場所

(1) 買い物をする場所・手段（単純集計結果）

- 丹後町外の商店で買い物する世帯が多い（74.8%）。
- 生協も幅広く利用されている（47.0%）。

現在の買い物場所を尋ねた問（問 4 複数回答）では、「丹後町外の商店」と回答した世帯が最も多く、196 人（74.8%）であった。次いで「生協などの宅配」が 124 人（47.0%）、次に「にしがき間人店」が 98 人（37.1%）、「移動販売車」が 75 人（28.4%）であった。

丹後町外での買い物場所として具体的にあげられた店は、マイン、バザール、ゴダイ、にしがき、コスモス、業務スーパーなどである。宇川住民が買い物をする場所として丹後町外の商店が最も多いのは、マインのような大規模店舗の他、バザールやにしがきなどが峰山町や網野町に存在するためだと考えられる。一方、生協などの宅配や移動販売車を利用している世帯も多いことがわかった。車を使えない世帯や長距離の移動ができない世帯にとっては必要不可欠な買い物手段

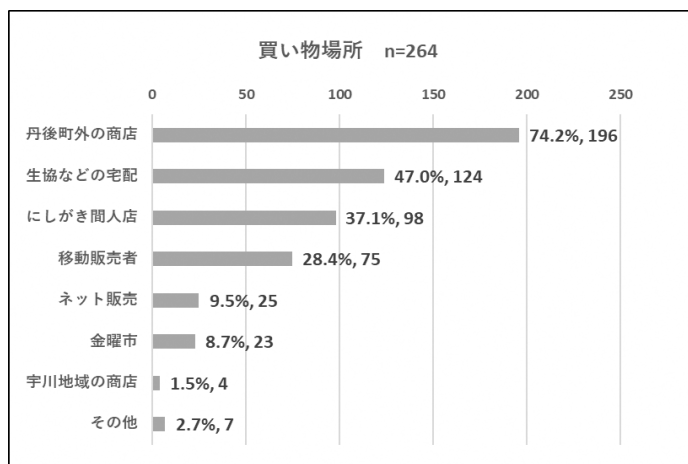


図 5-1 「買い物場所」

となっていることがわかる。

(2) 年齢・世帯構成から見た買い物場所・手段

- 買い物場所は、年齢・世帯構成・自家用車の利用状況によって大きく異なる。
- 65 歳以上のみの世帯では自家用車を利用し、町外まで買い物に出る世帯も多い（7 割）一方で、生協や移動販売車の利用も多い。実店舗を利用しない世帯も 1 割強いる。
- 75 歳以上のみの世帯では、「生協」と「移動販売車」が上位 2 位を占める。
- 単身世帯は自家用車の有無によって、買い物場所が大きく異なる。

①65 歳以上のみの世帯

主に高齢者のみ世帯に焦点をあて、買い物場所をみる。65 歳以上のみの世帯では、「丹後町外の商店」が 79 世帯（65.3%）で全体と同じく、最も多い。次いで、「生協などの宅配」が 61 世帯（50.4%）、「移動販売車」が 44 世帯（36.4%）であり、生協や移動販売車を利用する割合が高くなっている。

65 歳以上のみ世帯は、自分で車を運転できる人がいることが多いため、7 割近くの世帯が「丹後町外の商店」まで足を運んでいるが、3 割近くは丹後町外では買い物をしていない。また、丹後町外でも「にしがき間人店」でも買い物をしない世帯が、30 世帯（24.8%）にのぼる。また、実店舗で買い物をしない世帯が 15 世帯（12.4%）ある。この年齢層の世帯においては、「生協などの宅配」を利用する世帯が約半数いることから、車を使わなくても利用できる宅配や移動販売車が重要な買い物手段であることがわかる。

②75 歳以上のみの世帯

次に、75 歳以上のみ世帯では、丹後町外の商店で買い物をする割合が半数以下に減少する一方で、「生協などの宅配」の 30 世帯（52.6%）が最も多い回答であった。次いで「移動販売車」が 28 世帯（47.4%）、「丹後町外の商店」25 世帯（43.9%）であった。75 歳以上のみの世帯で、丹後町外では買い物せずににしがき間人店を利用する世帯は 8 世帯（15.8%）。また、生協、移動販売などのみを利用する世帯は 7 世帯（12.3%）であった。これらの世帯は、車を利用しない世帯である。

75 歳以上のみ世帯では、宅配や移動販売など、車を使えない世帯にも利用できる買い物手段が上位 2 つを占めている。但し、丹後町外の商店やにしがき間人店を利用している世帯も少数いることから、75 歳を超えても車を運転して遠くまで買い物に行く世帯がいるのも確かである。75 歳以上のみの高齢世帯で、実店舗で買い物をしない世帯は車を利用しない。

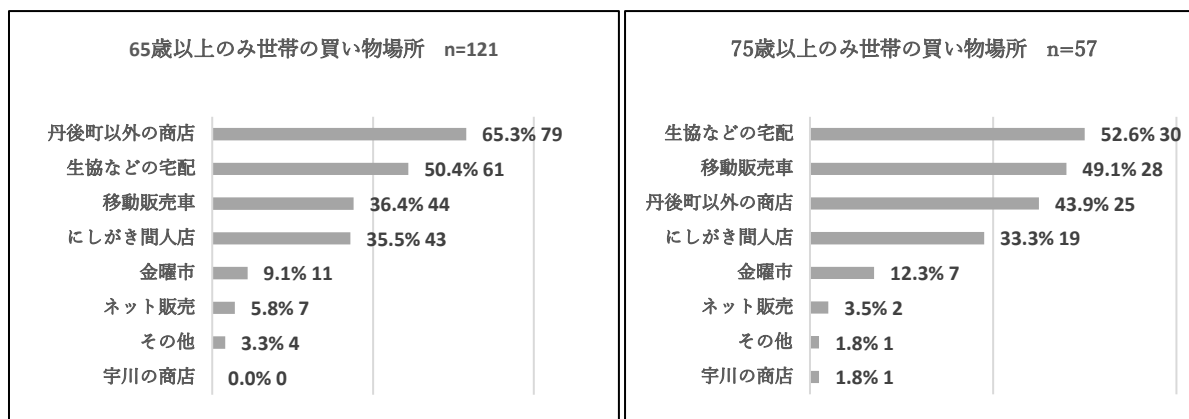


図 5-2 「年齢構成別の買い物場所」

表 5-1 「買い物に利用する店舗（世帯数）」

	宇川の 商店	金曜市	にしがき 間人店	生協等の 宅配	移動販売車	丹後町外の 商店	ネット 販売	その他	総数
65歳未満のみの世帯	2世帯	6世帯	24世帯	17世帯	8世帯	53世帯	9世帯	3世帯	62世帯
65歳以上を含む世帯	2世帯	17世帯	73世帯	106世帯	65世帯	143世帯	16世帯	4世帯	196世帯
65歳以上のみの世帯	1世帯	11世帯	43世帯	61世帯	44世帯	79世帯	7世帯	4世帯	121世帯
75歳以上のみの世帯	1世帯	7世帯	19世帯	30世帯	28世帯	25世帯	2世帯	1世帯	57世帯

表 5-2 「買い物に利用する店舗（割合(%)）」

	宇川の 商店	金曜市	にしがき 間人店	生協等の 宅配	移動販売車	丹後町外の 商店	ネット 販売	その他	総数
65歳未満のみの世帯	3.2%	9.7%	38.7%	27.4%	12.9%	85.5%	14.5%	4.8%	100.0%
65歳以上を含む世帯	0.5%	8.7%	37.2%	54.1%	33.2%	73.0%	8.2%	2.0%	100.0%
65歳以上のみの世帯	0.8%	9.1%	35.5%	50.4%	36.4%	65.3%	5.8%	3.3%	100.0%
75歳以上のみの世帯	0.0%	12.3%	33.3%	52.6%	47.4%	43.9%	3.5%	1.8%	100.0%

③単身世帯

次に単身世帯についてみる。65 歳以上の単身世帯の買い物場所については、「生協などの宅配」を利用する世帯が、52 世帯中 27 世帯（40％）と一番多い。次いで「丹後町外の商店」が 25 世帯（48.1％）、「にしがき間人店」が 18 世帯（34.6％）であった。一方で、75 歳以上の単身世帯では、「生協などの宅配」が 16 世帯（61.5％）と最も多かった。次いで「移動販売車」が 10 世帯（38.4％）、「にしがき間人店」9 世帯（34.6％）であった。65 歳以上の単身世帯は、まだ自力で車を運転できる人がいると思われるので、丹後町外の商店を利用する世帯が半分以上の割合であるが、75 歳以上の単身世帯では、丹後町外の商店の利用率の割合が下がる。

車の利用状況による差異

そこで、車の利用状況をみてみると、65 歳以上の単身世帯のうち車を利用する世帯の買い物場所は、「丹後町外の商店」が 27 世帯中 17 世帯（60.3％）と最も多い。次に「にしがき間人店」「生協などの宅配」が 13 世帯（48.1％）となっている。一方、車を利用しない世帯の買い物場所は、「生協などの宅配」が 25 世帯中 14 世帯（56％）と最も多く、次に「移動販売車」が 9 世帯（36％）、「丹後町外の商店」は 8 世帯（32％）である。

75 歳以上の単身世帯のうち車を利用する世帯の買い物場所は、「にしがき間人店」が 11

世帯中 7 世帯（63.6％）と最も多かった。次いで、「丹後町外の商店」が 6 世帯（54.5％）、
「生協などの宅配」が 5 世帯（45.5％）であった。車を利用しない世帯の買い物場所は、
「生協などの宅配」が 15 世帯中 11 世帯（73.3％）で最も多かった。次に、「移動販売車」
が 7 世帯（46.7％）、「にしがき間人店」2 世帯（13.3％）であった。

以上のように、買い物場所は、年齢、世帯類型によって異なるが、特に車を利用できる
かどうかで、買い物場所が大きく異なることが分かった。また、車を利用しない世帯に
っては、生協、移動販売が、必要不可欠な買い物手段であることが分かった。

表 5-3 「車を運転する世帯の買い物に利用する店舗（世帯数）」「65 歳以上の単身世帯の買い物場所」

	宇川の 商店	金曜市	にしがき 間人店	生協等の 宅配	移動販売車	丹後町外の 商店	ネット 販売	その他	総数
65歳以上の運転する 単身世帯	0世帯	4世帯	13世帯	13世帯	8世帯	17世帯	3世帯	2世帯	27世帯
65歳以上の運転しない 単身世帯	1世帯	3世帯	5世帯	14世帯	9世帯	8世帯	2世帯	0世帯	25世帯
75歳以上の運転する 単身世帯	0世帯	3世帯	7世帯	5世帯	3世帯	6世帯	1世帯	1世帯	11世帯
75歳以上の運転しない 単身世帯	1世帯	1世帯	2世帯	11世帯	7世帯	0世帯	1世帯	0世帯	15世帯

表 5-4 「車を運転する世帯の買い物に利用する店舗（割合）」

	宇川の 商店	金曜市	にしがき 間人店	生協等の 宅配	移動販売車	丹後町外の 商店	ネット 販売	その他	総数
65歳以上の運転する 単身世帯	0.0%	14.8%	48.1%	48.1%	29.6%	63.0%	11.1%	7.4%	100.0%
65歳以上の運転しない 単身世帯	4.0%	12.0%	20.0%	56.0%	36.0%	32.0%	8.0%	0.0%	100.0%
75歳以上の運転する 単身世帯	0.0%	27.3%	63.6%	45.5%	27.3%	54.5%	9.1%	9.1%	100.0%
75歳以上の運転しない 単身世帯	6.7%	6.7%	13.3%	73.3%	46.7%	0.0%	6.7%	0.0%	100.0%

6. 買い物をする人

(1) 買い物をする人（単純集計結果）

- 92.8%の世帯が同居の家族だけで買い物を済ませている。

「誰が買い物をするのか」という問に対して、「同居の家族」だけで買い物を済ませている世帯は 264 世帯中 245 世帯（92.8%）、「同居していない家族」にも頼む世帯まで含めると 252 世帯（95.5%）と、殆どが家族だけで買い物を済ませていた。「家族以外」の「近所の方」、「ヘルパー等」に頼む世帯は 3 世帯（1.2%）であった。

表 6-1 「買い物に行く人〈全世帯（264 世帯）〉」

	同居の家族 だけで買い物す ませる	家族（非同居含む）だ けで買い物すませる	近所の方にも 頼む	ヘルパーにも 頼む	その他 （知人等）
回答数	245 世帯	252 世帯	1 世帯	0 世帯	2 世帯
割合	92.8%	95.5%	0.4%	0%	0.8%

(2) 年齢・世帯構成からみる買い物をする人

- 単身世帯、高齢者のみ世帯でも、殆どが同居の家族だけで買い物を済ませている。
- 単身世帯、65 歳以上のみ世帯の約 9 割が同居の家族のみで買い物。

世帯構成別

単身世帯で見ると、「自分」だけで買い物を済ませている世帯は、74 世帯中 65 世帯（87.8%）、「同居していない家族」にも頼む世帯はこれに加えて 2 世帯のみであった。また、「家族以外」の「近所の方」、「ヘルパー等」に頼む世帯は 3 世帯（1.1%）であった。

単身世帯以外の世帯では同居の家族だけで買い物を済ませる世帯が殆どであり（180 世帯・97.3%）、「同居していない家族」にも頼むという世帯（5 世帯）を加えると家族だけで買い物を済ませている世帯が 100%という回答となった。

表 6-2 「買い物に行く人〈単身世帯（74 世帯）〉」

	自分だけで買い 物をすませる	自分か同居していない 家族で買い物をする	近所の方にも 頼む	ヘルパーにも 頼む	その他 （知人等）
回答数	65 世帯	67 世帯	1 世帯	0 世帯	2 世帯
割合	87.8%	90.5%	1.4%	0%	2.7%

表 6-3 「買い物に行く人〈夫婦世帯・多世代世帯（185 世帯）〉」

	同居の家族だ けで買い物をす ませる	家族（非同居含む）だ けで買い物をすませる	近所の方にも 頼む	ヘルパーにも 頼む	その他 （知人等）
回答数	180 世帯	185 世帯	0 世帯	0 世帯	0 世帯
割合	97.3%	100%	0%	0%	0%

年齢別

次に、65 歳以上の高齢者のみの世帯で見ると、「同居の家族」だけで買い物を済ませる世帯は、121 世帯中 109 世帯（90%）、「同居していない家族」にも買い物を頼む世帯は 6 世帯であった。「同居していない家族」に頼む世帯 7 世帯（全世帯）のうち、6 世帯が高齢者のみ世帯だということになる。

このうち単身世帯では、65 歳以上の 52 世帯中 45 世帯が自分だけで買い物を済ませ、5 世帯が同居していない家族にも買い物を頼んでいる。一方、単身世帯以外の世帯（65 歳以上のみ世帯）では、同居家族だけで買い物を済ませる世帯が 64 世帯で、3 世帯が同居していない家族にも買い物を頼んでいる。

高齢者のみの世帯であっても、同居をしていない家族に買い物を頼む世帯は非常に少なく、わずか 6.6%のみである。この値は当初の予想よりもかなり低かった。また、近所の人やヘルパーに買い物を頼む世帯が殆どいないというのも予想外の結果であった。

2018 年度調査時には、「同居していない家族」に頼む世帯が 16 世帯、「近所の人」に買い物を頼む世帯が 10 世帯、「ヘルパーに頼む」世帯が 1 世帯あった。2018 年度調査時には、一人で調査に回答できない人には回答の手助けをしたと聞いている。今回の調査においては、一人で調査に回答できない人（買い物支援が本当に必要な人ともいえる）の回答が一定数抜け落ちている可能性がある。

表 6-4 「65 歳以上のみの高齢者の世帯（121 世帯）」

	同居の家族 だけで買い物を 済ませる	家族（非同居含む）だけで買 い物を済ませる	その他
回答数	109 世帯	118 世帯	1 世帯
割合	90%	97.5%	0.9%

表 6-5 「65 歳以上のみの高齢者の世帯〈単身世帯（52 世帯）〉」

	自分だけで買い物 を済ませる	自分か同居していない家族で 買い物を済ませる	その他
回答数	45 世帯	50 世帯	1 世帯
割合	86.5%	96.2%	1.9%

表 6-6 「65 歳以上のみの高齢者の世帯〈夫婦のみ・多世代世帯（67 世帯）〉」（未記入 1）

	同居の家族 だけで買い物を済ませる	家族（非同居含む）だけで買い物 を済ませる
回答数	64 世帯	67 世帯
割合	95.5%	100%

7. 買い物頻度

(1) 買い物頻度

- 週 1～3 回が約半数だが、月に数回も 24.2%と多い。
- 「ほとんど行かない」世帯も 1 割弱ある。

買い物に行く頻度は、「週1～3回」が、264世帯中 150 世帯（56.8%）と一番多い。次いで、「月に数回」が 64 世帯（24.2%）で、「ほとんど行かない」が 22 世帯（8.3%）であった。また、「週4～6回」が 18 世帯（6.8%）で、「毎日」が 6 世帯（2.3%）と回答している。宇川では、買い物場所までの距離が遠い為、車を運転しまとめ買いをしている世帯が多いことが推測される。

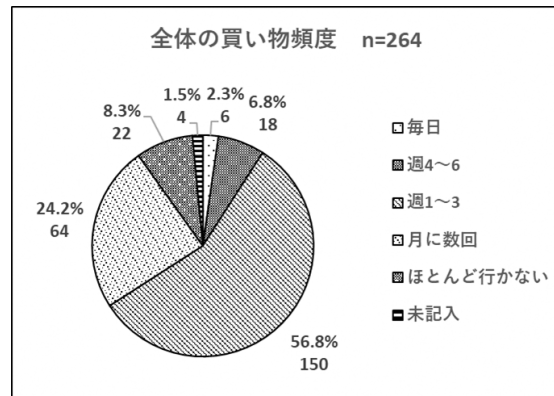


図7「買い物の頻度」

(2) 年齢・世帯構成から見る買い物の頻度

- 高齢者のみ世帯では、買い物の頻度は低い。
- 75歳以上のみ世帯では、「月に数回」と「ほとんど行かない」で59.6%。
- 65歳以上のみ世帯では、「月に数回」と「ほとんど行かない」で44.3%。

年齢に関わらず、集計結果は「週1～3回」と回答する世帯が最も多く、次に「月に数回」と回答する世帯が多かった。しかし、65歳未満のみの世帯は、「毎日」と回答している世帯が4世帯（6.5%）、「週4～6回」が10世帯（16.1%）いるのに対し、75歳以上のみの世帯は、「毎日」、「週4～6回」は、共に0世帯である。また、「ほとんど行かない」と回答している世帯は、65歳未満のみの世帯は、0世帯なのに対し、75歳以上のみの世帯は、15世帯（26.3%）であった。また、75歳以上のみの世帯は、「月に数回」と「ほとんど行かない」を合わせると、59.6%となる。ここから、高齢になるにつれ、車を運転しなくなり、買い物が不便になることで買い物の頻度が下がる人が多くなっているのではないかと推測できる。

表7-1「買い物の頻度（世帯数）」

	毎日	週4～6	週1～3	月に数回	ほとんど行かない	総数
65歳未満のみの世帯	4世帯	10世帯	38世帯	9世帯	0世帯	62世帯
65歳以上を含む世帯	2世帯	8世帯	109世帯	54世帯	21世帯	196世帯
65歳以上のみの世帯	1世帯	2世帯	61世帯	36世帯	19世帯	121世帯
75歳以上のみの世帯	0世帯	0世帯	22世帯	19世帯	15世帯	57世帯

表7-2「買い物の頻度（割合(%))」

	毎日	週4～6	週1～3	月に数回	ほとんど行かない	総数
65歳未満のみの世帯	6.5%	16.1%	61.3%	14.5%	0.0%	100.0%
65歳以上を含む世帯	1.0%	4.1%	55.6%	27.6%	10.7%	100.0%
65歳以上のみの世帯	0.8%	1.7%	50.4%	29.8%	15.7%	100.0%
75歳以上のみの世帯	0.0%	0.0%	38.6%	33.3%	26.3%	100.0%

(3) 自家用車の利用状況から見る買い物頻度

- 自家用車を利用するしないで買い物頻度が大きく変わる。
- 自家用車を利用しない世帯では、「月に数回」「ほとんど行かない」が7割。
- 75歳以上のみ世帯でも自家用車を利用する世帯では「週1～3回」が8割。

そこで、次に、自家用車の利用の有無により、買い物頻度が変わるかどうかを確認する。前述のとおり、買い物の際に車を使用する世帯は221世帯（83.7%）、利用しない世帯は43世帯（16.3%）である。

車を運転して買い物に行くことができない世帯で、「毎日」、「週4～6回」と回答している世帯は0であり、「月に数回」「ほとんど行かない」と回答している世帯が43世帯中30世帯（69.1%）を占めている。また、75歳以上のみ世帯で「週1～3回」と回答している世帯の車の利用率は、81.8%である。ここから車を運転しない世帯は、近くにスーパーなどの日用品・生鮮食料品を購入できる店舗がないため、必要であっても容易に買い物に行けず、買い物頻度が下がっているものと、考えることができる。

表 7-3 「自家用車の利用状況と買い物の頻度（世帯数）」

	毎日	週 4～6	週 1～3	月に数回	ほとんど 行かない	総数
利用する	6 世帯	18 世帯	137 世帯	49 世帯	7 世帯	221 世帯
利用しない	0 世帯	0 世帯	13 世帯	15 世帯	15 世帯	43 世帯

表 7-4 「自家用車の利用状況と買い物の頻度（割合(%)）」

	毎日	週 4～6	週 1～3	月に数回	ほとんど 行かない	総数
利用する	2.7%	8.1%	62.0%	22.2%	3.2%	100.0%
利用しない	0.0%	0.0%	30.2%	34.9%	34.9%	100.0%

以上が、宇川地域住民の買い物行動に関する回答の結果である。

このような状況の中で、住民は何が必要だと考え、どのようなことを求めているのだろうか。

8. 「今後宇川に必要なもの」について

(1) 今後、宇川に必要なもの（単純集計）

- 「スーパー」、「生協」、「移動販売」が上位3回答。
- 「コンビニ」、「地域が経営するよろずや的な小さな店」にもある程度の回答。

問8では、今後宇川に特に必要と思われるものを3つあげてもらった。回答では、「スーパーマーケット」が264世帯中136世帯（51.5%）で最も多く、次いで「生協」が109世帯（41.3%）、「移動販売」が87世帯（33.0%）であり、この3つが上位を占めている。上位3つの内容は2018年に実施した宇川買い物調査と同様の結果である（2018年度調査：スーパー225、移動販売194、生協133世帯）。

一方、コンビニ（73 世帯、27.7%）、「地域が経営する小さな店」（58 世帯 22.0%）に対しても一定のニーズがある。

これに対して、「近隣住民」（19 世帯、7.2%）、「家族の協力」（18 世帯、6.8%）、「ヘルパー」（13 世帯、4.9%）などによる買い物支援をあげた者は少なかった。買い物の問題は人に頼らずにできるだけ自分自身で買い物をしたいという住民が多いのではないかと考えられる。

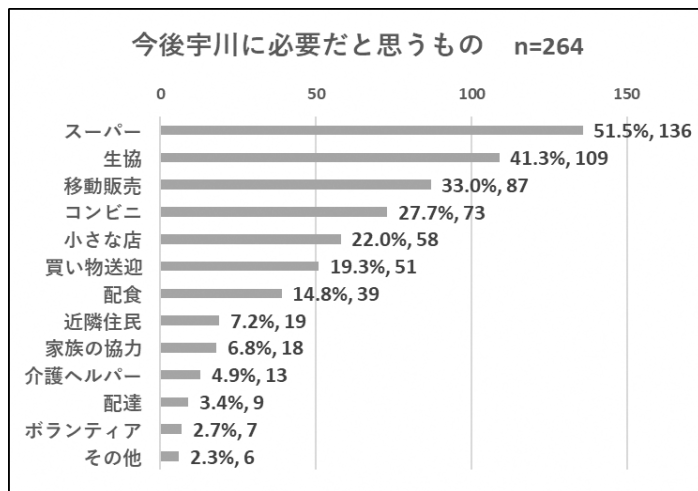


図 9-1 「今後宇川に必要だと思うもの」

(2) 年齢・世帯構成から見る「宇川に必要なもの」

次に、年齢・世帯構成ごとに「必要なもの」について見ていく。

- 年齢によって、必要と考えるものが異なる。
- 65 歳未満のみの世帯では、「スーパー」「コンビニ」「移動販売」。
- 65 歳以上のみの世帯では、「生協」「スーパー」「移動販売」。
- 75 歳以上のみの世帯では、「生協」「スーパー」「移動販売」。

年齢別

ここでは、65 歳未満のみの世帯と 65 歳以上のみの世帯、75 歳以上のみの世帯別に、今後宇川に必要だとされているものについて見ていく。

まず 65 歳未満のみの世帯は、「スーパーマーケット」が 62 世帯中 37 世帯（59.7%）と最も多く、次いで「コンビニ」30 世帯（48.4%）、「移動販売」19 世帯（30.6%）の順であった。コンビニが 2 番目に多かった回答は、65 歳未満のみの世帯だけであり、3 番目に多かった移動販売とも差をつけて、スーパーマーケットとコンビニの回答が多い。

このような回答結果となったのは、運転できる若い世代の人たちが、スーパーマーケットやコンビニなど物が充実した店舗で、直接品物を見て買い物をすることを望んでいるためではないかと考える。

次に 65 歳以上のみの世帯になると、「生協」が 121 世帯中 55 世帯（45.5%）と最も多く、次いで「スーパーマーケット」が 54 世帯（44.6%）、移動販売 39 世帯（32.2%）となる。

75 歳以上のみの世帯でも「生協」が 57 世帯中 26 世帯（45.6%）と最も多かった。次いで「スーパーマーケット」24 世帯（42.1%）、「移動販売」21 世帯（36.8%）であった。「生協」という回答が最も多かった世帯は、75 歳以上のみの世帯だけであった。運転できなくなった人や身体が弱っている人たちは、家や家の近くまで来てくれる生協や移動販売を求めているのではないかと考える。

なお、いずれの年齢層においても、「地域が経営するよろず屋的な小さな店」を必要とする回答が5位となっている。徒歩圏、あるいは身近な場所での小規模店舗への需要も一定程度ある。

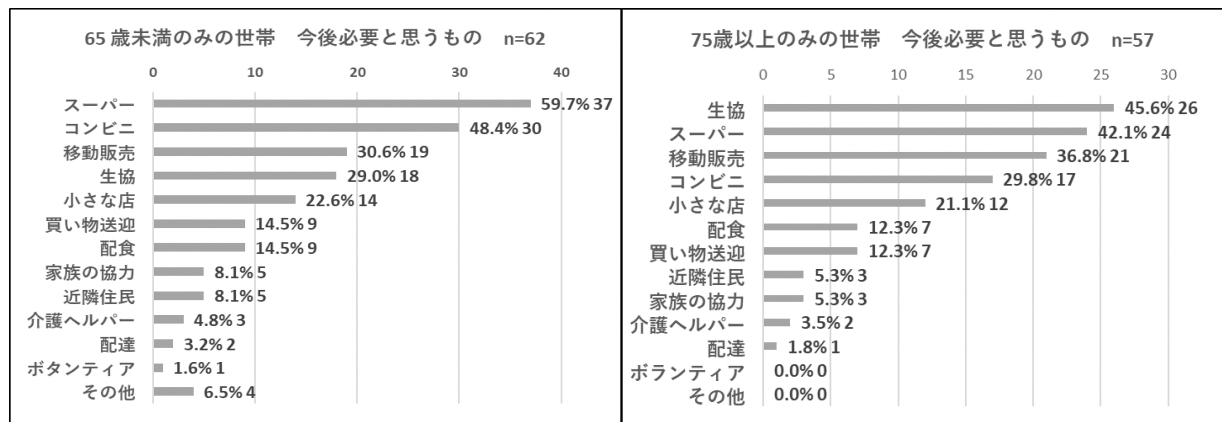


図 9-2 「年齢構成別の今後宇川に必要なと思うもの」

表 9-1 「今後宇川に必要なだと考えるもの（総数＝該当世帯数）」

	スーパーマーケット	コンビニ	小さな店	生協	移動販売	配食	買い物送迎	配達	家族の協力	近隣住民	介護ヘルパー	ボランティア	その他	総数
65歳未満のみの世帯	37世帯	30世帯	14世帯	18世帯	19世帯	9世帯	9世帯	2世帯	5世帯	5世帯	3世帯	1世帯	4世帯	62世帯
65歳以上を含む世帯	97世帯	41世帯	43世帯	89世帯	68世帯	27世帯	41世帯	7世帯	13世帯	14世帯	9世帯	6世帯	2世帯	196世帯
65歳以上のみの世帯	54世帯	27世帯	30世帯	55世帯	39世帯	18世帯	21世帯	2世帯	5世帯	10世帯	6世帯	4世帯	0世帯	121世帯
75歳以上のみの世帯	24世帯	17世帯	12世帯	26世帯	21世帯	7世帯	7世帯	1世帯	3世帯	3世帯	2世帯	0世帯	0世帯	57世帯

表 9-2 「今後宇川に必要なだと考えるもの（割合：回答数/該当世帯数）」

	スーパーマーケット	コンビニ	小さな店	生協	移動販売	配食	買い物送迎	配達	家族の協力	近隣住民	介護ヘルパー	ボランティア	その他	総数
65歳未満のみの世帯	59.7%	48.4%	22.6%	29.0%	30.6%	14.5%	14.5%	3.2%	8.1%	8.1%	4.8%	1.6%	6.5%	100.0%
65歳以上を含む世帯	49.5%	20.9%	21.9%	45.4%	34.7%	13.8%	20.9%	3.6%	6.6%	7.1%	4.6%	3.1%	1.0%	100.0%
65歳以上のみの世帯	44.6%	22.3%	24.8%	45.5%	32.2%	14.9%	17.4%	1.7%	4.1%	8.3%	5.0%	3.3%	0.0%	100.0%
75歳以上のみの世帯	42.1%	29.8%	21.1%	45.6%	36.8%	12.3%	12.3%	1.8%	5.3%	5.3%	3.5%	0.0%	0.0%	100.0%

65歳以上・75歳以上の単身世帯

次に、65歳以上の単身世帯と75歳以上の単身世帯について見ていく。65歳以上の単身世帯では、「生協」が52世帯中22世帯（42.3%）と最も多かった。次いで「小さな店」（地域が経営するよろず屋的な小さな店）16世帯（30.8%）、「スーパーマーケット」が15世帯（28.8%）と「移動販売」が14世帯（26.9%）であった。

また75歳以上のみの単身世帯も65歳以上のみの単身世帯と同じで、「生協」が26世帯中13世帯（50.0%）と最も多かった。次いで「小さな店」（地域が経営するよろず屋的な小さな店）8世帯（30.8%）、「コンビニ」と「移動販売」がともに7世帯（26.9%）であった。

宇川全体ではスーパーマーケットを求めている声が最も多かったが、65歳以上の単身世帯では、生協を必要と考える人が最も多い。また、「移動販売」「地域が経営するよろず屋的な小さな店」など、必要最低限のものを身近なところで購入できる店舗を求めていることがわかった。

表 9-3 「今後宇川に必要だと考えるもの〈単身世帯〉(世帯数)」

	スーパーマーケット	コンビニ	小さな店	生協	移動販売	配食	買い物送迎	配達	家族の協力	近隣住民	介護ヘルパー	ボランティア	その他	総数
65歳以上のみの単身世帯	15世帯	12世帯	16世帯	22世帯	14世帯	10世帯	6世帯	2世帯	0世帯	7世帯	1世帯	3世帯	0世帯	52世帯
75歳以上のみの単身世帯	6世帯	7世帯	8世帯	13世帯	7世帯	4世帯	2世帯	1世帯	0世帯	2世帯	0世帯	0世帯	0世帯	25世帯

表 9-4 「今後宇川に必要だと考えるもの〈単身世帯〉(割合(%))」

	スーパーマーケット	コンビニ	小さな店	生協	移動販売	配食	買い物送迎	配達	家族の協力	近隣住民	介護ヘルパー	ボランティア	その他	総数
65歳以上のみの単身世帯	28.8%	23.1%	30.8%	42.3%	26.9%	19.2%	15.4%	3.8%	0.0%	13.5%	1.9%	5.8%	0.0%	100.0%
75歳以上のみの単身世帯	23.1%	26.9%	30.8%	50.0%	26.9%	15.4%	7.7%	3.8%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(3) 自家用車の利用状況から見る「宇川に必要なもの」

- 自家用車を利用する世帯は、「スーパー」「生協」「移動販売」の順に多い
- 自家用車を利用しない世帯は、「生協」「移動販売」「スーパー」の順に多い

ここでは自家用車の利用状況別に今後宇川に必要だと思うものについて見ていく。自家用車を利用している世帯では、「スーパーマーケット」が 221 世帯中 124 世帯 (56.1%) と最も多かった。次いで「生協」92 世帯 (41.6%)、「移動販売」74 世帯 (33.5%) であった。

一方、自家用車を利用していない世帯では、「生協」が 43 世帯中 17 世帯 (39.5%) と最も多かった。次いで「移動販売」13 世帯 (30.2%)、「スーパーマーケット」12 世帯 (27.9%) であった。

自家用車を利用している世帯は、動ける範囲が広いため、スーパーマーケットを最も求める回答が最も多く、一方、自家用車を利用していない世帯は、動ける範囲が狭まるため、できるだけ家の近くまでものを運んでくれる生協を必要とする回答が最も多くなっているものと考えられる。

表 9-5 「今後宇川に必要だと考えるもの〈自家用車の利用状況別〉(世帯数)」

	スーパーマーケット	コンビニ	小さな店	生協	移動販売	配食	買い物送迎	配達	家族の協力	近隣住民	介護ヘルパー	ボランティア	その他	総数
車を利用する世帯	124世帯	63世帯	47世帯	92世帯	74世帯	33世帯	44世帯	9世帯	15世帯	12世帯	11世帯	5世帯	6世帯	221世帯
車を利用しない世帯	12世帯	10世帯	11世帯	17世帯	13世帯	6世帯	7世帯	0世帯	3世帯	7世帯	2世帯	2世帯	0世帯	43世帯

表 9-6 「今後宇川に必要だと考えるもの〈自家用車の利用状況別〉(割合(%))」

	スーパーマーケット	コンビニ	小さな店	生協	移動販売	配食	買い物送迎	配達	家族の協力	近隣住民	介護ヘルパー	ボランティア	その他	総数
車を利用する世帯	56.1%	28.5%	21.3%	41.6%	33.5%	14.9%	19.9%	4.1%	6.8%	5.4%	5.0%	2.3%	2.7%	100.0%
車を利用しない世帯	27.9%	23.3%	25.6%	39.5%	30.2%	14.0%	16.3%	0.0%	7.0%	16.3%	4.7%	4.7%	0.0%	100.0%

どのような年齢・世帯であっても、「スーパー」、「生協」、「移動販売」「コンビニ」が上位を占めていた。だが、比較的若い世帯ではコンビニを求める声が、一方、高齢になればなるほど運転もできなくなるため、生協や移動販売など、身近なところで買い物ができる手段を望んでいることがわかった。

9. 「実現可能だと思う方法」について

(1) 宇川で実現可能だと思う方法について（全体）

➤ 実店舗の誘致・充実、実現可能な方法だと考えられている。

買い物に対するニーズは様々あるが、実際に宇川地域で実現可能な方法としてはどのようなものがあるだろうか。宇川地域で実現可能だと思う方法、自分たちでやってみたいと思う方法について尋ねたところ（問9）、「お店の出店」が264世帯中154世帯（58.3%）を占め、全世帯の約60%がお店の出店を実現可能な方法として、認識していることがわかる。次いで、「既存の店の充実」が129世帯（48.9%）と、約50%の世帯が既存の店の充実を実現可能な方法であると考えている。

これらのことから、地域住民は、「実店舗」に対する何かしらの要望や想いは強くもっており、またそれを実現可能な方法と捉えているものと考えられる。

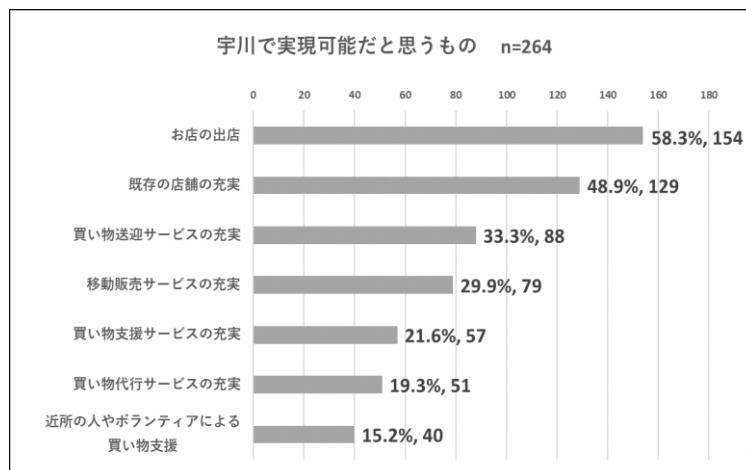


図 10-1 「宇川で実現可能だと思う方法」

(2) 小項目ごとに見る、「実現可能な方法」

次に、上の大項目に紐付けた小項目についてみていく（小項目と大項目の関係については、参照、別添資料）。小項目においては、「宇川温泉でミニスーパー（生鮮食料品や日用品も販売する）」（大項目：既存の店の充実）が264世帯中103世帯（39.0%）と最も回答が多い。次いで、「スーパーの誘致（大項目：お店の出店）」が87世帯（33.0%）となっている。この2項目は突出して多かったが、どちらも実店舗のスーパーであり、スーパーに対する地域住民の需要が高いことを示していると言える。

また、「決まった曜日・日時の買い物送迎サポート（大項目：買い物送迎サービスの充実）」との回答が59世帯（22.3%）となっており、買い物に行く手段を確保することは地域にとって重要なことであると考えられる。移動販売については「曜日を増やす」または「平日にも運行する」という希望が延べ80世帯から寄せられた。金曜日についても「販売物を増やす」が36世帯、「曜日を増やす」が29世帯、「出品者を増やす」が22世帯と期待があることがわかる。

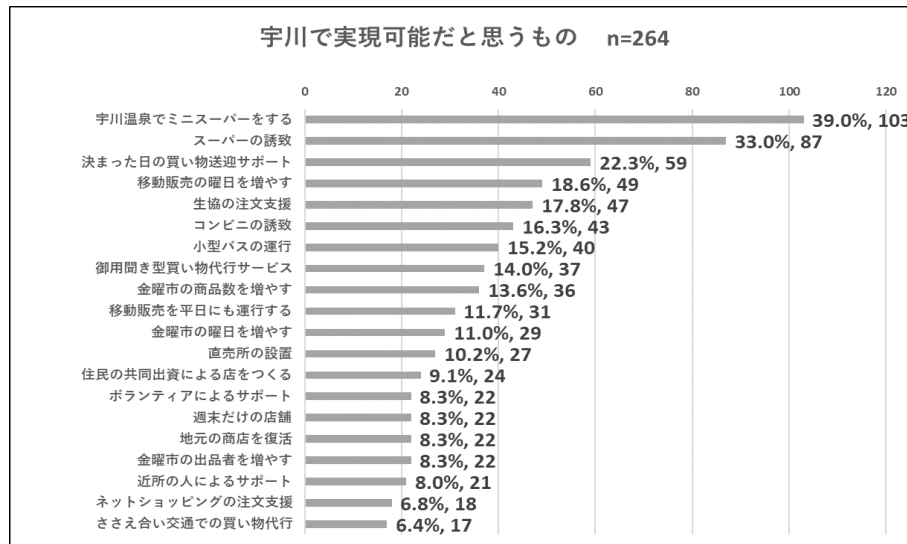


図 10-2 「宇川で実現可能だと思う方法（小項目ごと）」

(3) 「実現可能な方策」としてあげられた「アイディア」

具体的な「実現可能な方策」におけるアイデアについては、下記の意見が寄せられた。

〈お店の出店〉

間人にしがきによる移動販売。行政に頑張ってもらう。直売所に関してどこか1カ所に持ち寄って開く。宅食とスーパーの兼業。従業員を最小限にする。商品数を厳選し、需要の低い商品はカタログで取り寄せをし、コストを下げる。既存店への支援など。企業に来てもらう。網野町の米軍施設内のようなコンビニの誘致（宇川だけでは厳しいため、例えば伊根町にもできれば配送の無駄が少しでも減少する）。宇川アクティブライフハウス内に設置するよろず屋的なお店。米軍ボランティアに協力してもらう。

〈生協・インターネットなどの買い物支援サービスの充実〉

区が相談にのる。または、組内でサポートをする。各区内で実態調査を行い、その対策を考える。生協組合員と生協合同でボランティアグループを立ち上げる。一緒に自宅でサポートをする。

〈買い物代行サービスの充実〉

買い物難民家庭に行政が注文員を派遣する。公営組織の設置。

〈近所の人やボランティアによる買い物支援〉

「お互い様だ」との気持ちをもって気軽に声を掛け合う。秘密を守る男性が良い、女性は気を遣う。御用聞き型。チェックシート式による週1～3の依頼代行。品物は予め決まっていてそこから選ぶ形で、生協タイプの御用聞き型（チラシ配る、ほしいものにチェックをつける、配達、チラシを回収するのは配達時）。区、組内等に相談する窓口をつくる。

10. 買い物全般についての自由記述

買い物全体について、困っていることやアイデアについて尋ねたところ（問 10）、それぞれ、次のような意見が寄せられた。

(1) 困っていること

自由記述における「困っていること」については、以下のように買い物・移動・お金・その他に分類することができた。

〈買い物〉

地域でゴミ袋さえ買うことができない。週末買い出しに行くのが遠くて、時間的に不便且つ負担である。町外の大きな店に出してしまう。買い置きしなければいけない。近くで買い物したい。

〈移動〉

車が必要。車以外の手段なし。高齢者は店が近くても行くのが困難。生協のみになる。住みづらい。足がない。車に乗れなくなった時に足がない。買い忘れや保冷品に往復 30 分は厳しい。

〈お金〉

移動販売は値段が高い。ヘルパーや介護サービスに頼みにくい。年金ひとり暮らしはお金をかけられない。支援・代行サービスは手数料がかかるなら余裕ない人は利用できない。

〈その他〉

干渉されたくない性格・地域的性質がある。金曜市運営者にこれ以上の負担は申し訳ない。上・下宇川でスーパーに対する温度差がありすぎる。交流がない。コロナ禍で外出が減り、高齢者の足腰が弱くなっている。生鮮鮮魚が食べられない。生協は冷凍ばかり、漁協は売り場が遠くて買えないため、生魚を食べられない。米軍マイナスイメージ。

(2) アイデア

自由記述における「アイデア」については、以下のように移動・行政・交流・支援・店舗／移動販売・その他に分類することができた。

〈店舗／移動販売〉

学校に店舗誘致。企業を呼ぶ。米軍基地内に施設（スーパー・カフェ）誘致。雇用創出。三輪町のようにミニバザールに交渉する。にしがき間人による移動販売。いとめのような行商の人が週何回かに分けて来てもらう。営業時間幅の多様化。1 店舗の複合的施設にする。既存店のような充実したサービスを行わない。土日市の開催と送迎。セルフのスタンドコンビニ。生協で買い忘れたときに近くに店が欲しい。1 店舗にスーパー・金曜市・直売所を集約する。小さな店の復活。公民館で生活雑貨が買えるシステム。移動しない移動スーパー、一カ所に毎日常駐。宇川温泉売り場の拡充（人件費住民負担）。「さとう」との連携。

〈交流〉

集まりやすい環境が必要。宇川温泉や金曜みたいな話し合いできる場が欲しい。買い物＋サロンの交流の場。金曜市の継続。移動販売に子育て世代の方が多く来るようになることで、高齢者が子どもと触れ合うことができ元気が出る。

〈支援〉

幅広い地区に届く支援。多くの人が支援側に関わる仕組み。週 1 で良いから、信用ある人を行政で支援して欲しい。独居老人への声掛け。同乗の仕組み。

〈移動〉

金曜市や宇川温泉に行きやすくするために、デマンドバスを予約なしにする。報酬ありで、自分が高齢者を連れて行く。

〈その他〉

米軍基地があることが良いと思えるまちづくり。映えスポット。先進的な取り組みの紹介。地域の資源を活用。加工できる施設をつくる。上下連合で設備投資を行い、運営をプロに任す。

11. 団体への期待について

様々な意見、要望があるなかで、住民は、今後の改善に向け、どのような団体（区長会、行政、NPO 法人、社協、スマート定住）にどのようなことを期待しているのだろうか。

(1) 期待する団体について

期待する団体と内容について尋ねた問（問 7）においては、158 の回答（135 件の自由記述回答）を得た。この中では、「行政」に何らかの事柄を期待する世帯が 75 世帯（68.8%）と最も多かった。次に区長会に 27 世帯（24.8%）、スマート定住に 24 世帯（22.0%）が、それぞれ期待する事柄を自由記述欄に記載している。

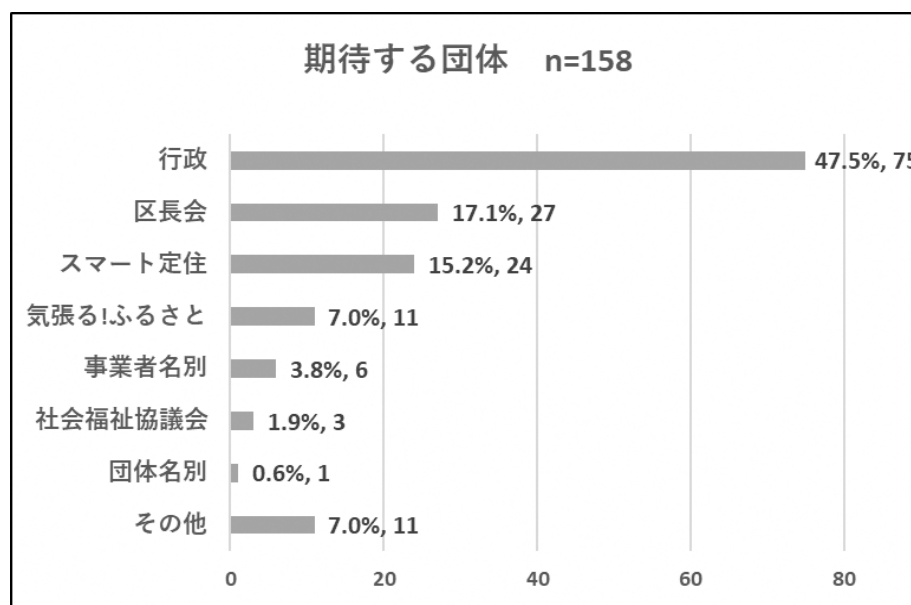


図 8 「期待する団体」

(2) 求める支援内容について

以下の表は、団体に求める支援の内容である。158 件の回答のうち 135 件の記述回答が得られた。内容については、「店舗誘致」に関する記述が 73（54.1％）と全記述数の半数以上を占めている。その次に多いのが、「金曜日」に関する内容が 17（12.6％）、「移動手段」が 12（8.9％）、「移動販売」10（7.4％）となっている。

表 8「記述内容別の回答世帯数・割合」

	主な記述内容	記述数	集計割合
店舗誘致	スーパーやコンビニの誘致・または新設	73	54.1％
金曜日	食料品の充実・住民の希望に沿った商品を置いてほしい・土日も開催してほしい。	17	12.6％
移動手段	無料買い物バスの運行	12	8.9％
移動販売	移動販売の充実・移動販売車への支援	10	8.9％
その他	あまり期待していない・よくわからない	23	7.4％
		135	100.0％

(3) 団体別記述内容

〈行政〉

行政に求める意見としては、「助成金を活用した店舗誘致・店舗新設」「無料送迎バスによる移動支援」「買い物代行」などの様々な支援が挙げられる。

店舗誘致。市の運営するスーパー業務を作ってほしい、職場づくりにもなる。再編交付金でスーパーを建設して運営。移動手段の充実。住民のためにもっと力を注いでほしい。お店の出店してくれる所への助成金。移動販売車への支援（ドライバーへ補助）。

〈区長会〉

区長会に求める意見としては、「行政・民間に店舗誘致を働きかける」「地元マーケットの新設」などが挙げられる。

行政に店舗誘致の働きかけ。無料買い物送迎バスを運行してほしい。地域の声を代表として届けてほしい。移動販売の誘致。地域マーケットの新設、（地元営業）。買い物に行きたくても、行けない高齢者の把握。

〈スマート定住促進協議会（金曜日に関して）〉

スマート定住に求める意見としては、「金曜市の商品数増加・平日以外の開催」などが挙げられる。

金曜は仕事をしていていけないので、土日開催をたまにはしてほしい。品物の充実（生鮮食品・地元産品・日用品）。宇川ハウス内に店舗を設ける。宇川アクティブハウス内に日を決めて日用品等の必需品などの住民の商品希望の多いものをおいてほしい。金曜市は今まで通り実施して、後週二回ほど日用品のみ販売する。上宇川地区の高齢者への呼びかけ。

〈NPO 法人 気張る！ふるさと丹後町〉

NPO 法人 気張る！ふるさと丹後町に求める意見としては、「若い世代への認知」「事業の継続」が挙げられる。

事業の継続。若い世代への認知。利用しやすい仕組みについて考えてほしい。移動手段の充実。

〈社会福祉協議会〉

店舗誘致。移動販売車への手助け。

〈事業者〉

生協に移動販売車を回してほしい。いともめ 移動販売。中浜漁港（魚貝販売をもっと動いてほしい）。ひさみ（米軍の補助金を使う）。ローソン。イオン。 express

【参考資料】 調査項目

※質問項目・内容については、変化がわかるよう、基本的に 2018 年度調査と同じものとし、若干の質問項目、内容の追加・修正を行った。

【お住いの区について】

お住まいの区はどちらですか？

【世帯状況について】

（問 1）世帯の状況について教えてください

①世帯の状況について教えてください。

ア. 単身世帯 イ. 夫婦のみ世帯 ウ. 多世代世帯

②世帯の年齢構成についてお聞きします。

ア. 18 歳未満の家族がいる イ. 18 歳以上 65 歳未満の家族がいる

ウ. 65 歳以上 75 歳未満の家族がいる エ. 75 歳以上の家族がいる

【現在の生鮮食料品や日用品の買い物の方法について】

（問 2）買い物に行く手段を教えてください。（複数回答可）

ア. 徒歩 イ. 自転車 ウ. 自分もしくは、同居の家族が運転する車・バイク

エ. 同居していない家族が運転する車 オ. 知り合いの車

カ. 買物で外には出ない（宅配など利用）

キ. 丹海バス・市営デマンドバス

⇒ ☐ 現在利用している ☐ 過去に利用したことがある

☐ 利用したことはないが今後は利用する（したい）

ク. NPO 法人 気張る！ふるさと丹後町の「ささえ合い交通」

⇒ ☐ 一人もしくは家族で利用 ☐ 近所の人や友人と乗り合わせて利用

☐ 現在利用している ☐ 過去に利用したことがある

☐ 利用したことはないが今後は利用する（したい）

ケ. その他（ ）

(問3) 現在、お買い物に車を利用している方に質問します。

①ご自身(回答者)は、何歳まで運転しますか。

⇒ ☐ 65 歳まで ☐ 70 歳まで ☐ 75 歳まで ☐ 80 歳以上まで

②ご自身または同居の方が将来、運転できなくなったら、買い物はどうされますか。

(3 つまで選択)

⇒ ☐ 同居していない家族に頼む ☐ 近所の人に頼む ☐ 知り合いに頼む

☐ 民生委員などに頼む ☐ ヘルパーや介護サービスに頼む ☐ 生協を利用する

☐ ネット販売を利用する ☐ 支え合い交通を利用して買い物に行く

☐ 丹海バスを利用して買い物に行く ☐ 買い物が便利なところに引っ越す

☐ どうしたらいいかわからない ☐ その他 ()

(問4) 現在、どのお店で買い物をされていますか。(複数回答可)

ア. 宇川地域の商店 (お店の名前:) イ. 金曜市 ウ. にしがき間人店 エ. 生協などの
宅配 オ. 移動販売車 (事業者名:) カ. 丹後町以外の商店 (よく利用するお店の名
前:) キ. ネット販売 (よく利用するネット販売:) ク. その他 ()

(問5) 買い物は誰がするか教えてください。(複数回答可)

①〈単身世帯の方〉

ア. 買い物は自分です。 イ. 同居していない家族が買い物に行く。

ウ. 近所の方をお願いします。 エ. ヘルパーやシルバー人材センターなどに買い物を頼む。

オ. その他 ()

②〈単身世帯以外のご家族〉

ア. 家族のそれぞれが必要に応じて自分で買い物に行く。

イ. 家族の分をまとめて、家族の誰か決まった人が買いに行くことが多い。

ウ. 同居していない家族が買い物に行く。 エ. 近所の方をお願いします。

オ. ヘルパーやシルバー人材センターなどに買い物を頼む。 カ. その他 ()

(問6) 「にしがき宇川店」が閉店してからの買い物に行く頻度を教えてください。

ア. にしがき閉店の前と後で買い物頻度は、変わらない。

⇒ ☐ ほぼ毎日 ☐ 週4～6回 ☐ 週1～3回 ☐ 月に数回 ☐ ほとんど行かない

イ. にしがき閉店後買い物頻度は、減った。

⇒ ☐ 週4～6回 ☐ 週1～3回 ☐ 月に数回 ☐ ほとんど行かない

【買い物支援に関し期待することを教えてください。】

(問7) 期待する団体と、支援内容について教えてください。

ア. 区長会 () イ. 行政 ()

ウ. NP0 法人気張る！ふるさと丹後町 ※支え合い交通を実施する団体です。 ()

エ. 社会福祉協議会 ()

オ. 宇川スマート定住促進協議会 ※金曜市を実施している団体です。 ()

カ. 団体名 () キ. 事業者名 () ク. その他 ()

(問8) 今後、宇川で特に必要だと思われるものを3つまで選んでください。

ア. スーパーマーケット イ. コンビニ ウ. 地域が経営するよろずや的な小さな店

エ. 生協などの宅配 オ. 移動販売 カ. 弁当・おかずの配食販売

- キ. 買い物送迎サービス ク. 店で買った商品の配達 ケ. 家族の協力
 コ. 近隣住民の協力 サ. 介護ヘルパー等の支援 シ. ボランティアの支援
 ス. その他（ ）

(問9) 宇川地域で実現可能だと思う方法、自分たちでやってみたいと思う方法に○✓をつけてください。
 ※これらの選択肢は、前回(平成31年)のアンケートで、住民の皆さんからアイデアとしてでてきたものです。

ア. お店の出店 ☐ 住民の共同出資によるお店の出店

☐ スーパーの誘致 ☐ コンビニの誘致 ☐ 地元の商店を復活させる ☐ 直売所

☐ 週末だけの店舗 ☐ その他（ ）

※どのようにすれば実現するか、アイデアがあればお書きください。（ ）

※備考：一般にスーパー、コンビニの出店に必要な商圈人口は、3000～4000 人程度とされています。

イ. 既存の店舗・お店(金曜市・宇川温泉など)の充実

☐ 金曜市の曜日を増やす ☐ 金曜市で日用品などの販売も増やす

☐ 金曜市での出品者を増やす ☐ 宇川温泉でミニスーパー(生鮮食料品や日用品も販売する)

☐ その他（ ）

ウ. 移動販売サービス充実

☐ 曜日を増やす ☐ 平日にも販売する ☐ その他（ ）

エ. 買い物送迎サービスの充実

☐ 決まった曜日・日時にスーパーなどへの送迎をサポート

☐ スーパーをまわる小型バスの運行 ☐ その他（ ）

※どのようにすれば実現できるか、アイデアがあればお書きください。（ ）

オ. 生協、インターネットなどの買い物支援サービスの充実

☐ 生協の注文が難しい人への支援 ☐ ネットショッピングが難しい人への支援 ☐ その他（ ）

※どのようにすれば実現できるか、アイデアがあればお書きください。（ ）

カ. 買い物代行サービスの充実

☐ 御用聞き型買い物代行サービス ☐ 支えあい交通での買い物代行 ☐ その他（ ）

※どのようにすれば実現できるか、アイデアがあればお書きください。（ ）

キ. 近所の人やボランティアによる買い物支援

☐ 近所の人によるサポート ☐ 近所の人以外のボランティアによるサポート

※どのようにすれば実現できるか、アイデアがあればお書きください。（ ）

(問10) その他、買い物について、困ることや良いアイデア等があれば教えてください。

【回答者について】

最後に、ご回答者ご自身について教えてください。

①性別を教えてください。

ア. 男性 イ. 女性

②年齢を教えてください。

ア. 10 歳代 イ. 20 歳代 ウ. 30 歳代 エ. 40 歳代 オ. 50 歳代 カ. 60 歳代 キ. 70 歳代
 ク. 80 歳代 ケ. 90 歳代

第Ⅱ部 いととめ移動販売に関する調査結果について

1. 調査の概要

- (1) 目的 : いととめ移動販売の現状、いととめを利用する宇川地域住民の買物状況を把握し、利用者のニーズや必要とされる支援を明らかにするとともに、いととめ移動販売の意義と課題を分析する。
- (2) 実施主体 : 今里ゼミナール
- (3) 協力機関 : 株式会社いととめ
- (4) 調査方法 : 2021年10月3日、10月24日の二日間にわたり、いととめ移動販売の全行程（10の集落、12の販売場所）に同行し、ドライバーの坂本数馬氏と買い物客から聞き取りを行った。
- ※買い物客からの聞き取り調査の際には、おおよその質問項目を用意し、自由に話してもらいながら調査用紙に記述をしていく方法をとった。

2. いととめ移動販売の概要

【いととめ移動販売車（今里ゼミ撮影）】

(1) いととめ移動販売開始の経緯

移動店舗いととめ号による移動販売は、2019年1月の「にしがき宇川店」の閉店を受け、買い物場所がなくなることにより危機感を感じた住民が、従来より移動販売を行っていた「いととめ」に直接依頼をしたことから始まった。2019年1月に試運行が開始され、同年4月には本運行が開始されている。



(2) 販売ルート等

運行しているのは、大宮町に本店があるスーパー「いととめ」である。毎週日曜日10時から18時まで、宇川地区内の10集落11か所（現在は12か所）を回って販売している。移動販売は仕入れ販売担当兼運転手として坂本数馬氏がほぼ全てを行っており、年末以外は年中無休である。新型コロナウイルス感染症が流行してから、人との接触が少なく済むためか、利用者数が増加したとのことである。

表1 2021年10月現在のルート

時間	集落	場所
10:10～10:50	中浜	公民館前
11:00～11:30	尾和	永美様宅前
11:40～11:40	袖志	集会所前
12:30～13:00	久僧	公民館駐車場
休憩		
13:30～14:00	谷内/上山	区民会館近く
14:10～14:50	上野	公民館前
14:55～15:25	平	常德寺下付近
15:35～16:05	平/中野	田中時江様宅前
16:10～16:30	遠下	改善センター前
16:35～16:55	遠下	区民会館前
17:05～17:35	鞍内	ふれあいセンター前
17:45～18:00	中野	宇川保育所前

(3) 商品・客数等

商品は、肉魚（刺身もある）などの生鮮食料品の他、惣菜、日用品な

商品	生鮮食料品、惣菜、パン、菓子、日用品
商品の種類	約900種類
買い物客数	1日平均107人、月平均約500人

ど約 900 種類である。1 日の平均客数は 107 人、月平均約 500 人である。



(4)利用者

各販売地点での平均利用者数(2019 年 1 月から 2021 年 5 月まで)は、表 2 のとおりである。人口の多い中浜や袖志、久僧の利用者数が多くなっているが、世帯数 13 の鞍内地区では、平均して 10 人以上の利用がある。また、2 カ所に分散しているが遠下地区においても平均して 10 人以上の利用がある。どちらの地区でも販売車が到着する前から販売車を待っている高齢者の姿が見られた。

表 2「各地点の平均利用者数(2019 年 1 月～2021 年 5 月現在)」

	下宇川						上宇川				
集落	①中浜	②尾和	③袖志	④久僧	⑤谷内/上山	⑥上野	⑦平	⑧平/中野	⑨遠下	⑩遠下	⑪鞍内
平均人数	21.4	9.2	18.8	12.2	4.6	4.1	9.2	6.0	6.0	5.5	10.3

表 3「各地点の平均利用者数(2021 年 10 月 3 日調査日)」

	下宇川						上宇川				
集落	①中浜	②尾和	③袖志	④久僧	⑤谷内/上山	⑥上野	⑦平	⑧平/中野	⑨遠下	⑩遠下	⑪鞍内
平均人数	23	11	21	10	7	2	8	12	5	4	7

※12 番目の地点(中野)は⑧と一緒に集計されている。

利用者のほとんどは高齢者で特に 80 歳代以上の女性が多い。移動販売を行っている坂本氏と住民の信頼関係は厚く、住民の個別の要望により移動販売車にない商品を仕入れるなど、買い物客の個別のニーズにも応えていることが窺えた。また、現在は、坂本氏に加えて、宇川スマート定住促進協議会の事務局員、青木滉人氏が、毎週、移動販売に付き添い、販売車の階段の上り下りが難しいお年寄りの代わりに買い物をしたり、荷物運搬の介助などを行っている。しかし、移動販売車の維持費には相当な費用が掛かっており、年に一度の冷蔵庫の修繕、タイヤの交換、週 2 日の燃料費等のコストが負担となっているとのことであった。

3. 買い物客への聞き取り調査結果

(1) 調査方法

前述のように、本調査においては、買い物客への聞き取り調査を行っている。ここでは、10月3日に調査に応じた62名の聞き取り調査結果について、分析することとする。

(2) 回答者の属性

① 地区

アンケート調査を行った結果、62人から回答を得ることができた。回答者は、袖志地区・平地区ともに62人中11人（17.7%）で最も多かった。次いで多かった回答は、中浜地区で10人（16.1%）であった。

表2「各地点の回答者」

	中浜	尾和	袖志	久僧	谷内	上野	鞍内	平	遠下	合計
人数	10	6	11	8	2	2	5	11	7	62
割合	16%	10%	18%	13%	3%	3%	8%	18%	11%	100%

② 性別、年齢、車の利用

回答者62人中55人（88.7%）が女性であり、圧倒的に女性が多いことがわかる。

次に、年齢構成について見ていく。いっとめ利用者62人中35人（56.5%）と半数以上が、80歳代以上の高齢者であった。また、車を運転しない世帯が62人中39人（62.9%）であった。車を利用しないことと80歳以上という高齢者が多いことが、いっとめ利用者の特徴である。

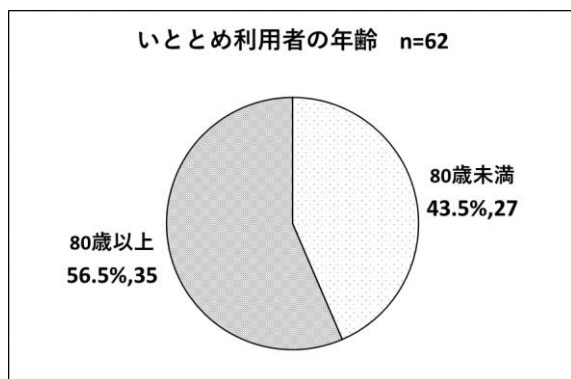


図2-1「利用者の年齢」

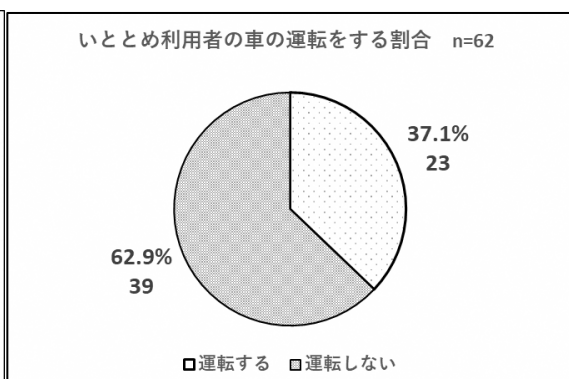


図2-2「利用者の車の利用率」

(3) いっとめに来る頻度

いっとめを利用する頻度は、「絶対」毎週来ている人が62人中42人（67.7%）と1番多かった。次いで、「ほぼ毎週」来る人が12人（19.4%）、「たまに」利用する人が8人（12.9%）であった。「絶対に毎週利用」と「ほぼ毎週」で90%近くを占めており、いっとめ移動販売を利用する多くの人は、いっとめ移動販売を主な買い物場所としていることが窺える。

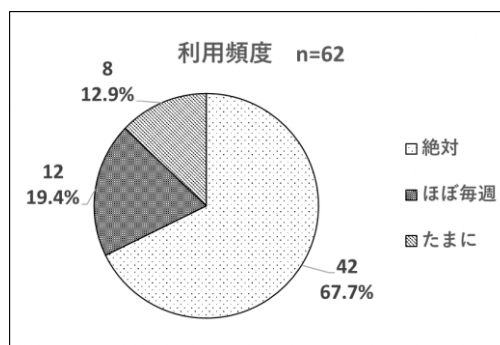


図3「利用頻度」

(4) いととめでの買い物の目的

いととめにくる目的は、「日常の買い物」全般と回答した人が最も多く、62 人中 34 人 (54.8%) であった。次いで「その時に欲しかったもの」が 18 人 (29.0%) であった。

「日常の買い物」を行っている人は、毎週いととめを訪れ、生活に必要なものを購入しているのではないかと考えられる。特定の商品（惣菜・パン・生鮮食品）を買いに来るというよりは、惣菜やパンも含め日常生活に必要なものを買い求める人が多い。いととめを日常的に利用している人にとって、いととめの存在は大きく、生活に欠かせないものだと考えられる。

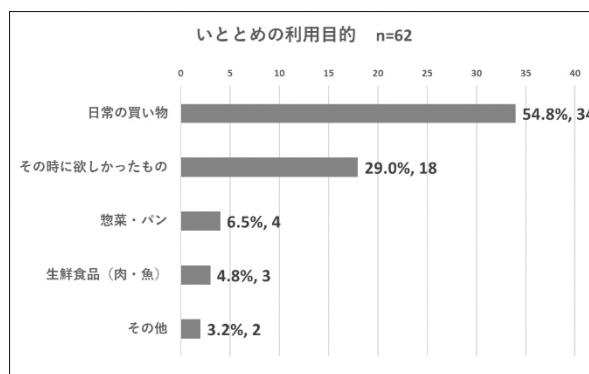


図4「利用者の買い物目的」

(5) いととめ以外で買い物をする場所

いととめを利用する人々は、いととめ以外にどのような場所で買い物をするのだろうか。いととめ以外の買い物場所について尋ねたところ「生協」が 18 世帯 (29.0%) であり、多くの人が外出する必要のない生協を利用していることが分かった。次いで峰山・網野・弥栄など丹後町外の 2 町以上の店を複数使っている人も 14 世帯 (22.6%) と多く、普段の買い物の補助としていととめを使っている人も多いと分かった。一方「いととめ以外はなし」が 7 世帯 (11.3%) あり、買い物を専らいととめに頼っている人もいることが分かった。

次に年齢ごとに、いととめ以外の買い物場所についてみていく。80 歳未満の人々は丹後町外の 2 町以上で買い物する人が 10 世帯 (37.0%) といととめ以外にも多くの買い物場所を持っていることが分かった。また、「生協」が 7 世帯 (25.9%) と 80 歳未満でも買い物で外出しない人がいることが分かった。

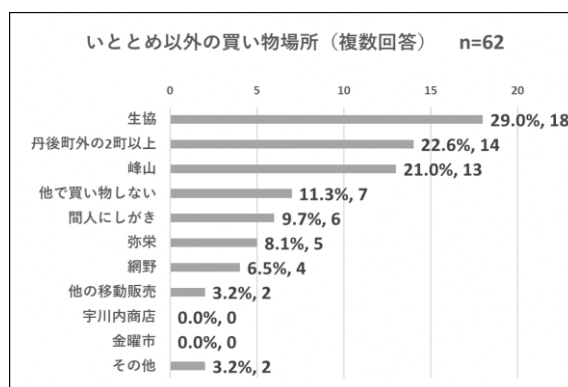


図5-1「いととめ移動販売以外の買い物場所」

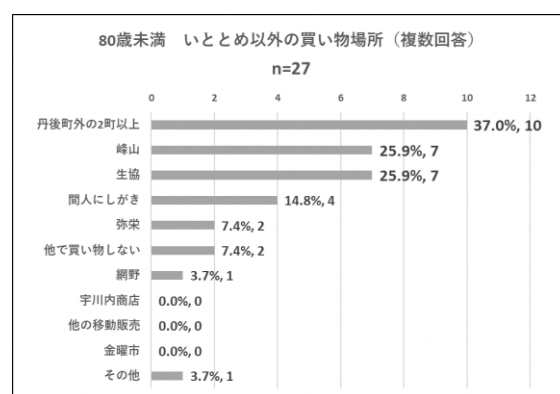


図5-2「いととめ移動販売以外の買い物場所（80歳未満）」

一方、80 歳以上の人々は、「生協」が 11 世帯（30.6%）、「他で買い物しない」が 5 世帯（13.9%）あり、買い物で外出しない人が 80 歳未満と比較して大幅に増加していることが分かった。特に、「他で買い物しない」が 80 歳未満と比較して約 2 倍に増加しており、買い物をいっとめのみに頼っている人もいることがわかった。

このことから、いっとめ利用者のいっとめ以外の買い物場所には年齢で大きな差があることがわかる。今後、さらに高齢化が進み 80 歳以上の人々が増加すると買い物をいっとめのみに依存する人・買い物で外出しない人の割合が増加すると予想できる。

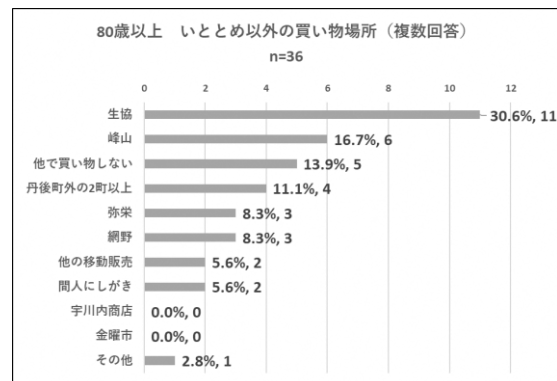


図 5-3 「いっとめ移動販売以外の買い物場所（80 歳以上）」

(6) いっとめ以外での買い物での移動手段

いっとめ以外の場所で買い物を行うにあたって、どのような移動手段を用いるのかという質問に対しては、「自分で車」と回答した人が最も多く、62 人中 21 人（33.9%）であった。次いで、「家族にらせてもらう」が 14 人（22.6%）、「家族に買ってきてもらう」は 12 人（19.4%）となっている。また、バスやささえ合い交通を利用する人は合わせて 7 人と少ない。

全体の 3 割の人は、自分の車で買い物に行くと回答をしているが、それ以外の回答はいずれも移動手段を有していないが故に、家族や近所の人に頼ったり、そもそも買い物にすら行かない決断をしているのではないかと考えられる。

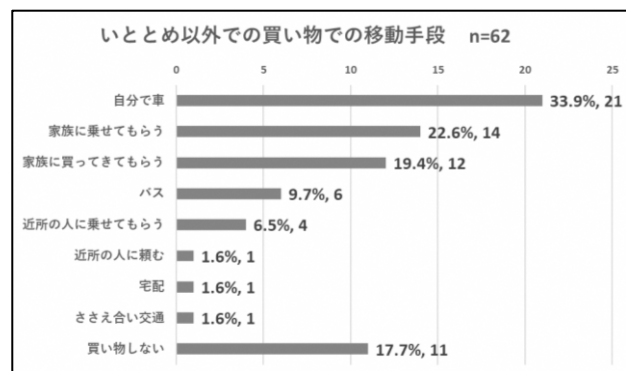


図 6 「いっとめ移動販売以外の買い物での移動手段」

(7) 金曜市での買い物について

最後に、「いっとめ」利用者が、金曜市を利用しているのかどうかを尋ねたところ、「坂を上るのが大変（中浜）」「数回は言ったことがある（上宇川）」「下宇川の活動場所なので行きにくい（上宇川）」「歩いていける距離ではないため、行くのが大変（上宇川・袖志等）」といった意見が寄せられた。

金曜市には美味しい惣菜があり、交流の機会もあるが、金曜市（アクティブライフハウス）がある久僧地区以外の人は、「坂道」や「距離」、そして「気持ち」がバリアとなっていて、利用しづらいものとなっているのかもしれない。

4. 小括

移動販売の全行程に同行し、買い物介助もしながら聞き取り調査や観察を行ったことにより、宇川地域の買い物の現状をより詳細に把握することができた。

移動手段がなかったり、遠くに買い物に行くことが難しかったりする人にとって、毎

週のいととめ移動販売は生活の基盤であり、なくてはならない存在だと考えられる。聞き取り調査からは利用者の約 60%が 80 歳以上、また全体の約 90%が毎週来ている人であることが分かった。車を運転しない人やできない人が多く利用しているため、歩いてくることのできる距離まで来てもらえる移動販売は、「現物を見て買い物できる」貴重な場所であり、多くの人から「助かっている」との声があった。実際に、ヒアリングの際にも、坂本氏が、利用者から大変感謝されていることがひしひしと伝わってきた。

それに加えて、いととめ移動販売が地域の人々にとって交流の機会となっていることもわかった。地域の人々は日常的に人との交流の機会を求めているにも関わらず、移動が困難であるが故に宇川ハウスまで行けなかったり、そもそも交流の機会が少なかったりする。その中で、週に一度のいととめでの買い物の時間が貴重な交流の場となっているのではないだろうか。実際に、学生が調査を行っている時も、楽しそうに様々なお話をして下さる高齢者が多かった。「買い物場所」であると同時に「交流の場」となっているいととめは、今の宇川地域において必要不可欠な存在だと言える。

宇川地域では、今後さらに高齢化が進行すると予測されるため、歩いて行けるところまできてくれるいととめ移動販売を必要とする人はますます増加するのではないかと考えられる。一方で、移動販売は、仕入れから運転、販売まで全て坂本氏一人に頼り切っているのが現状である。後継者問題や維持費の課題があるなかで、今後どのように対応していくのが重要である。

第Ⅲ部 金曜市に関する調査結果について

1. 調査の概要

- (1) 目的 : 金曜市の運営、出品者の状況、利用者の買い物状況を把握し、どのようなニーズがあるのか、どのような買い物支援が望まれているのかを明らかにするとともに、金曜市の意義と課題を分析する。
- (2) 実施主体 : 今里ゼミナール
- (3) 協力機関 : 宇川スマート定住促進協議会
- (4) 調査方法 : 2021 年 3 月 12 日、4 月 9 日、7 月 23 日、7 月 25 日、10 月 8 日の 5 日間に渡り、金曜市の手伝い、イベント運営などを行いながら運営実態を観察するとともに、宇川スマート定住促進協議会の事務局員、青木氏、レジ担当の奥口氏から聞き取りを行った。また、10 月 8 日には買い物客から聞き取りをおこなった。
※買い物客からの聞き取り調査の際には、おおよその質問項目を用意し、自由に話してもらいながら調査用紙に記述をしていく方法をとった。

2. 金曜市の概要

(1)「宇川マルシェ金曜日」とは

金曜市の正式名称は「宇川マルシェ金曜日」である。2019年1月にスーパー「にしがき宇川店」が閉店し、加えて地元の野菜などを置いていた宇川温泉マルシェが2020年2月より改装工事のために休業したことなどから、宇川地域住民の意向を受け、2020年3月に開始された。運営を行っているのは、宇川スマート定住促進協議会である。



金曜市は買い物をできる楽しさや交流の場の創出、食料品・日用品の販売確保などを目的としている。金曜日には喫茶店コーナーも併設されており、地域における交流の場にもなっている。

2020年3月から緊急事態宣言時期を除き、毎週金曜日に開催しており、2021年11月5日時点で合計44回開催されている。

(2)商品等の詳細

金曜日では、手作りの惣菜、菓子、地元の野菜、魚を中心に販売している。惣菜は宇川加工所のメンバーが調理したものが中心であり、野菜や干物などは地元の生産者や海産物加工グループなどの出品による。出品者は約40名、平均出品数は66種類、一日の販売数は平均470品である。金曜市の開催に当たっては、宇川地域で活動が続けてきた宇川加工所の存在が大きい。宇川加工所は、「宇川の豊かな食材を使って宇川が元気になることをやりたい」との趣旨の下に2013年より活動を行っており、新型コロナウイルス感染症拡大前は、年に2回、手づくりの「ランチ・バイキング」を実施していた。宇川地域の住民には宇川加工所の手づくり惣菜は、宇川地域住民にとっては既におなじみであり、また、「楽しみ」でもある。



商品	手づくり惣菜、野菜、干物、日用品など
種類	66種類
出品者	約40名
販売数・額	平均470品、約10万円
買い物客数	1日平均86人、延べ3500人以上
客単価	1300円程度

利用客は、平均で86人、最も多い日で130人、これまで、延べ3500人以上が利用した。平均客単価は1300円、一日の売上げはおおよそ10万円前後ということである。

来店手段は、自家用車が55%、徒歩が35%、バスと乗り合わせが5%ずつとのことである。

3. 買い物客へのアンケート調査結果

(1)調査方法

前述のように、本調査においては、買い物客へのアンケート調査を行っている。ここでは、10月8日に調査に応じた29名の聞き取り調査結果について、分析することとする。

(2) 回答者の属性

① 地区

回答者では、久僧地区住民が 29 人中 11 人 (37.9%) と最も多かった。また、下宇川から来ている人が 19 人と 6 割以上を占めていた。これは金曜市が行われている宇川アクティブライフハウスが久僧地区にあることと、宇川アクティブライフハウスが元下宇川保育所であり、下宇川の人にとってより親しみのある施設であるためではないかと思われる。一方、丹後町外からの来訪者も 5 人いた。

表 3-1「地区別の回答者数」

上宇川	下宇川	丹後町	丹後町外	合計
3	19	2	5	29
10.3%	65.5%	6.9%	17.2%	100.0%

表 3-2「集落別の回答者数」

上宇川	下宇川					丹後町	丹後町外						
平	袖志	尾和	中浜	久僧	谷内	間人	網野	峰山	京都市内	与謝野町	豊栄	合計	
3	2	1	3	11	2	2	1	1	1	1	1	29	
10.3%	6.9%	3.4%	10.3%	37.9%	6.9%	6.9%	3.4%	3.4%	3.4%	3.4%	3.4%	100.0%	

② 性別、年齢

回答者の 8 割以上 (29 人中 22 人) は、女性だった。また、年齢は、60-70 歳の人 が 12 人 (41.4%)、70 歳以上の人 が 11 人 (37.9%) だった。

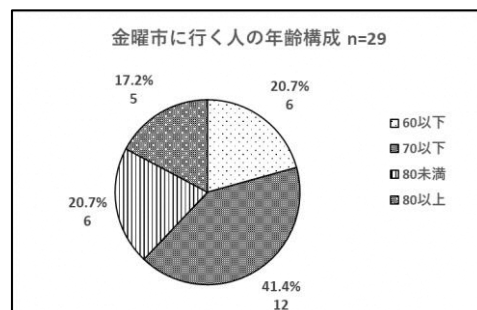


図 3「回答者の年齢構成」

(3) 金曜市までの移動手段

金曜市までの移動手段は「自分で車」と回答した人が 29 人中 12 人 (41.4%)、「徒歩」が 10 人 (34.5%) であった。また、「近所の人の車」「デマンドバス」を利用している人が 2 人 (6.9%) ずついた。「徒歩」と回答した人は全員が久僧地区の住民であった。同じ下宇川地域でも、久僧地区以外の住民は車を利用して金曜市に来ており、宇川地域の多くの人にとって、金曜市は車を使って訪れる場所だということがわかる。車の運転ができず、宇川アクティブライフハウスから家が遠い人は、金曜市に来ることは難しい人が多いのではないかとと思われる。

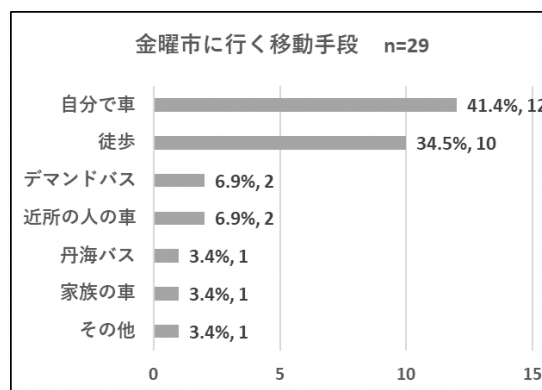


表 4「下宇川の住民の金曜市までの移動手段」

	自分で車	家族の車	近所の人の車	デマンドバス	丹海バス	徒歩	その他	総数
宇川ハウスまでの移動手段	6人	0人	1人	2人	0人	10人	0人	19人
宇川ハウスまでの移動手段	31.6%	0.0%	5.3%	10.5%	0.0%	52.6%	0.0%	100.0%

図 4「金曜市までの移動手段」

(4) 金曜市に来る頻度

金曜市に来る頻度については、最も多かったのが「毎回」で 17 人(57.1%)であった。「月に数回」との回答も 4 人(14.3%)あり、29 人中 21 人がかなりの頻度で金曜市に来ていることがわかった。「はじめて」はゼロであり、「たまに」も 7 人(25.0%)であった。金曜市の利用客は、徒歩でこられる「常連」が多いものと考えられる。

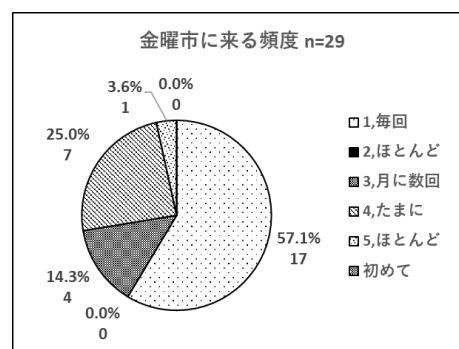


図 5「金曜市に来る頻度」

(5) 金曜市に来る目的、金曜市で買うもの

金曜市に来る目的は「買い物」が多いが(29 人中 23 人: 79.3%)、「人と会う」ためとの回答も 9 人(31.0%)あった。金曜市に来る目的は「買い物」がメインだが、交流も大きな目的であることがわかる。

次に、金曜市で買うものについては、「惣菜・スイーツ」と回答した人が 29 人中 21 人(72.4%)、次いで「野菜」と回答した人が 19 人(65.5%)となっている。

4. 小括

本調査においては、上記のアンケート以外にも、買い物客との対話や買い物行動の観察などから数値では測ることができない宇川地域の買い物の現状を知ることができた。

金曜市で行った上述のアンケート調査では、29 人しか話を聞くことができなかったが、金曜市の平均来場者は 86 人であり、喫茶(カフェ)を利用している人や 10 時よりも早く来てすぐに帰る人など様々な人がある。青木氏や奥口氏へのヒアリングによれば、そのような人々は毎週、目的をもって金曜市を利用している人が多く、リピーターであるとのことである。基本的に、金曜市は同じ人が毎回利用していることが多く、その人にとっては「買い物」場所であり「人と会える」場所でもあると考えられる。

金曜市を利用している人は平均的に年齢が高く、宇川アクティブライフハウスが位置する久僧地区やその隣の中浜地区の人が多く。つまり、金曜市は物理的に来ることが比較的容易な人にとっては「買い物場所」としても、「交流の場所」としても機能しているが、それ以外の人にとっては、あまり機能していないのではないだろうか。

しかし、「人と会う」ことができる貴重な時間・場所として、金曜市が存在していることは重要な点である。調査の際には、多くの人が人と話すことを楽しんでいる様子を見ることができた上、私たち学生との交流も楽しんでもらえている雰囲気を感じることができた。また、地元の産品を使った手づくり惣菜は人気であり、広報と移動手段さえあれば、もっと来場者も増えるのではないかとと思われる。

数値で測ることが難しいが、宇川地域で金曜市が行われていること自体に大きな意味があるのではないだろうか。2019 年に「にしがき宇川店」が閉店して以降、いともめ移動販売や金曜市が新たな動きとしてみられるが、こういった宇川を盛り上げる動きがあることが、地域の中では、大きな意義をもつと考える。地域のために頑張っている人が身近にいることは、周囲の人々にも良い影響を与え、地域をより良くしていこうという動きにつながっていくのではないかと考えられる。

